議 事 日 程 （第 1 号）

平成28年12月16日（金曜日）午前9時30分 開議

- 日程第1 会議録署名議員の指名について
- 日程第2 会期の決定について
- 日程第3 例月出納検査結果報告並びに定例監査結果報告
- 日程第4 議員派遣の件
- 日程第5 一 般 質 問
- 日程第6 承認第4号 専決処分の承認を求めることについて
専第8号 平成28年度東白川村国民健康保険特別会計補正予算（第2号）
- 日程第7 議案第69号 可茂広域行政事務組合規約の一部を変更する規約に関する協議について
- 日程第8 議案第70号 可茂広域公平委員会共同設置規約の制定に関する協議について
- 日程第9 議案第71号 東白川村議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正する
条例について
- 日程第10 議案第72号 東白川村常勤の特別職職員の給与に関する条例の一部を改正する条例につ
いて
- 日程第11 議案第73号 東白川村職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第12 議案第74号 東白川村保育の実施に関する条例を廃止する条例について
- 日程第13 議案第75号 東白川村農業委員会の委員等の定数を定める条例について
- 日程第14 議案第76号 平成28年度東白川村一般会計補正予算（第6号）
- 日程第15 議案第77号 平成28年度東白川村国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
- 日程第16 議案第78号 平成28年度東白川村簡易水道特別会計補正予算（第3号）
- 日程第17 議案第79号 平成28年度東白川村下水道特別会計補正予算（第2号）
- 日程第18 議案第80号 平成28年度東白川村国保診療所特別会計補正予算（第3号）
- 日程第19 東白川村選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙について
- 日程第20 発議第2号 地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書について
- 日程第21 閉会中における議会運営委員会の継続調査について

出席議員（7名）

1番	今井美和	2番	今井美道
3番	桂川一喜	4番	樋口春市
5番	服田順次	6番	今井保都
7番	安江祐策		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため会議に出席した者の職・氏名

村長	今井俊郎	教育長	安江雅信
参事兼総務課長	安江良浩	参事兼村民課長	小池毅
会計管理者	安江誠	地域振興課長	桂川憲生
産業振興課長	今井稔	建設環境課長	今井義尚
教育課長	安江任弘	国保診療所 事務局長	伊藤保夫
監査委員	安江弘企		

本会議に職務のため出席した者の職・氏名

議会事務局長 次	安江由次
-------------	------

◎開会及び開議の宣告

○議長（服田順次君）

ただいまから平成28年第4回東白川村議会定例会を開会いたします。

本日の出席議員は7名です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

本日の日程は、お手元に配付申し上げたとおりであります。

◎会議録署名議員の指名について

○議長（服田順次君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第113条の規定により、3番 桂川一喜君、4番 樋口春市君を指名します。

◎会期の決定について

○議長（服田順次君）

日程第2、会期の決定についてを議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、本日から12月20日までの5日間にしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。したがって、会期は本日から12月20日までの5日間に決定しました。

◎例月出納検査結果報告並びに定例監査結果報告

○議長（服田順次君）

日程第3、例月出納検査結果報告並びに定例監査結果報告を議題とします。

監査委員の報告を求めます。

監査委員 安江弘企君。

○監査委員（安江弘企君）

平成28年12月16日、東白川村議会議長 服田順次様。東白川村監査委員 安江弘企、同じく今井保都。

例月出納検査結果報告。

平成28年8月分、9月分及び10月分の出納検査を実施したので、その結果を地方自治法第235条の2第3項の規定により報告する。

記1. 検査の対象 平成28年8月分、9月分及び10月分の東白川村一般会計、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、簡易水道特別会計、下水道特別会計、国保診療所特別会計、後期高齢者医療特別会計、歳入歳出外会計及び基金に係る現金、預金等の保管状況。

2. 検査の時期 平成28年9月29日、10月20日及び11月22日。

3. 検査の結果 平成28年8月末日、9月末日及び10月末日における上記会計の予算執行状況、現金及び預金の現在高並びにその保管状況は別紙のとおりであり、諸帳簿の計数は全て関係書類に合致し正確であった。

続きまして、定例監査結果報告を別冊に出しておりますので、朗読をさせていただきます。

定例監査結果報告書。

地方自治法第199条第4項の規定により、平成28年10月18日、19日及び同月27日、28日の4日間実施した定例監査の結果は次のとおりである。よって、同法第199条第9項の規定により報告する。なお、同法同条第10項の規定により意見書を付する。

平成28年12月16日、東白川村監査委員 安江弘企、同じく今井保都。東白川村長 今井俊郎様、東白川村議会議長 服田順次様。

監査の主眼。

1. 予算の執行は適法かつ効果的に行われているかの確認。
2. 前年度の滞納額が確実に調定されているかの確認。
3. 事務事業が住民福祉の増進に寄与しているかの確認。
4. 最小の経費で最大の効果を上げているかの確認。

監査の方法。

前半、書類審査。

1. 平成28年度9月末の各会計の予算の執行状況、現金、預金、有価証券及び基金等の管理保管状況等の監査。

2. 平成28年9月末の各課所管の事務事業の進捗状況の監査。
3. 平成27年度末の村税等の滞納分が28年度に調定され、収入督促がされているかの監査。
4. 村が発注する契約事務が適正に行われているかの確認。
5. その他関係する必要事項の監査。

後半、現地監査。

1. 農林施設、福祉施設、体育施設の利用状況及び維持管理の状況。
2. 平成28年度各工事の進捗状況と平成27年度下半期の各工事の完成状況の監査。
3. 平成27年度及び平成28年度に補助金を交付した施設や備品の利用状況の監査。

監査の結果。

1. 予算の執行状況及び預金等の管理状況。

平成28年度9月末現在の一般会計と特別会計を合わせた予算規模は42億4,418万7,000円で、予算執行状況は、収入済額21億9,750万5,864円、支出済額16億4,077万2,499円、歳計外現金会計の差引残高を合わせた残高は5億6,891万6,955円であり、その保管状況はいずれもめぐみの農協東白川村支店で、普通預金5億6,891万3,235円、当座預金720円、代替バス用つり銭3,000円であります。歳出予算執行率38.7%で、前年度同期と比較すると2.5ポイント上回っています。

基金の保管状況は、前年度同期と比較すると529万5,621円減の16億8,018万3,793円です。その内容は、定期預金24口、普通預金4口、国債2口であります。

出資証券等の管理状況は、前年度同期と比較して、新たにみのりの郷東白川株式会社に1,500万円の出資を行い、岐阜県信用保証協会出捐金で2,000円増額したため、1億3,316万円となっております。その内容は、出資証券11団体、証書53枚1,299万8,500円、株券8団体、51枚1億1,716万1,500円、債権1団体300万円であります。

予算の執行状況、現金保管状況、基金管理及び有価証券保管状況は適正であり、正確であることを認めます。

2. 滞納の状況と滞納整理。

平成27年度末の村税の滞納繰越額は1,723万5,796円であり、それが28年度に適正に調定され、歳入の督促がされているかを調査しました。

調定については、滞納額が28年度に計上され、適正に処理されておりました。納入の督促をされているかについては、税金等で9月末までに滞納繰越分289万7,228円が納付されておりました。

なお、村税等、主な9月末の滞納額は次のとおりであります。

28年度9月末、村税821万7,880円、27年度9月末は朗読を省略させていただきます。国民健康保険税642万4,096円、介護保険料16万9,700円、CATV使用料252万3,630円、有線放送電話使用料ゼロ円、簡易水道使用料35万1,640円、後期高齢者医療保険料8万7,400円、合計1,777万4,346円。

主な村税等の滞納額を前年度同期と比較しますと852万円ほど減少しておりますが、これは前年度において約812万円不納欠損されたことが要因しており、滞納額は、28年度当初と比較すると53万8,550円増加しております。村税等の滞納処分が行われ、売掛金1件、預金4件の差し押さえで26万2,776円換価されており、徴収に努力され、一定の成果が上がっていることは評価しますが、まだ多額の滞納がありますので、負担の公平性の観点からも、引き続き滞納整理の推進と収納率向上に一層の努力をお願いします。

3. 村が発注する契約事務が適正に行われているかの確認。

今回の定例監査では、村が契約する工事及び委託契約について、27年度後期分と28年度前期分32事業について調査を行いました。契約規則等に従い、業者選定、事業等の管理事務の執行は適切に処理されておりました。

契約は入札が原則ですが、ECモール等に係るシステム構築事業では入札辞退の業者もあり、競争原理が働かず残念だと思いましたが、やむを得ないと感じました。

次に、現地調査で気づいたことを申し上げます。

1. 美しい村遊歩道については、白川の増水により、途中で流木が道を塞ぎ、通行できない状況にあります。景観もよく、安らげる場所ではありますが、流木を除去しても、毎年同じ状況になると思いますので、今後の利用方法を検討される必要があると思います。

2. 新世紀工房に設置したコンテナハウスは、村が事業主体となり購入し、新世紀工房に貸し付けをしておりますが、賃貸契約等が締結されておらず、契約するように担当者に伝えましたが、コ

ンテナハウスは新世紀工房が単独で利用する施設でありますので、今後は補助金等で対応されることが適当だと思います。

結び。

平成28年度の定例監査は、書類審査、現地監査に分けて、4日間実施しました。それぞれの担当課長、担当職員には多忙の折、懇切丁寧に説明いただき、多くの資料を提出していただき、ありがとうございました。

村職員の年次休暇の取得状況の資料も提出いただきました。年次休暇の取得状況は、1年間1人当たり平均5.1日で、係によってゼロ日から12.3日とばらつきがありました。年次休暇は年に20日間で、持ち越しがある職員は合わせると40日間の年次休暇があります。これに比較すると、取得率は低いと思いますが、時間外勤務等の取り扱いの見直しも行われ、職員の処遇改善が図られていますので、村民からの負託に応えるよう職務に精励していただきたいと思います。

景気の先行きについては、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待されるとされていますが、中山間地域では景気の実感はありません。基幹作物のお茶については、高齢化、労働に見合った収入がないなどの理由で、お茶栽培を続ける意欲が低下している状況にあります。新たな取り組みとして、持続可能ネットワーク事業、新世紀工房が事業主体となる農山村漁村振興事業交付金事業が計画されておりますので、これにより多くの農家が農業で収入が得られるよう期待しております。

東白川村「まち・ひと・しごと創生」総合戦略、第5次総合計画に基づき、29年度の予算編成も始まっていると思いますが、英知を結集し、村民が豊かさを実感できる政策が展開されることを祈念し、意見とします。以上でございます。

○議長（服田順次君）

監査委員の報告に対し、質疑を行います。

質疑はありませんか。

[挙手する者なし]

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

以上で、例月出納検査結果報告並びに定例監査結果報告を終わります。

◎議員派遣の件

○議長（服田順次君）

日程第4、議員派遣の件を議題とします。

本件について、趣旨説明を求めます。

議会運営委員長 桂川一喜君。

○議会運営委員長（桂川一喜君）

議員派遣の件。

次のとおり議員を派遣する。

派遣名、お松さま祭り、目的、地域の活性化に資する、派遣場所、茶の里会館周辺、期間、平成28年12月23日、派遣議員、議員全員。

以下、項目名を省略して読み上げます。

東白川村消防団出初め式、地域の防火防災に資する、はなのき会館、平成29年1月5日、議員全員。

平成29年東白川村成人式、新成人を祝すとともに青少年の健全育成に資する、東白川中学校、平成29年1月8日、議員全員。

中学校ふるさと学習発表会、生徒の健全育成に資する、東白川中学校、平成29年1月25日、桂川一喜。

そのほかにも、議長決裁によって議員を派遣したものがありますが、お手元の資料のほうで御確認ください。

以上で議員派遣の件の報告を終わります。

○議長（服田順次君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

[挙手する者なし]

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を省略し、議員派遣の件を採決します。

お諮りします。本件は、原案のとおり決定することに、また議長決定分について承認することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

異議なしと認めます。したがって、議員派遣の件は、原案のとおり可決、承認されました。

お諮りします。ただいま決定した議員派遣の内容について、変更の必要が生じた場合は、変更事項について議長一任をお願いできませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

異議なしと認めます。したがって、決定した議員派遣について変更の必要が生じた場合は、議長一任で変更できることに決定しました。

これで、議員派遣の件を終わります。

◎一般質問

○議長（服田順次君）

日程第5、一般質問を行います。

通告者は5名です。

順番に質問を許可します。

6番 今井保都君。

〔6番 今井保都君 一般質問〕

○6番（今井保都君）

一般質問の許可をいただきましたので、1番目に、医療、介護の施設整備について質問します。

東白川村の医療、介護の中心となる施設を一新するため、医療・福祉ゾーン整備計画検討委員会で検討されています。

去る9月29日に議会との意見交換会も開催され、活発な話し合いの中で建設の方向性が見えてきました。事業費は概算で6億余り、東白川村にとりましては大きな事業でございます。少子・高齢化が進む中でますます必要性を帯びてくると思います。

今後のスケジュールでは第5回検討会議で結審となっておりますので、議会への基本方針の説明があるということでございます。

東白川村の基本理念は、医療のみでなく、保健・介護・福祉が連携した一体的なサービスを提供できる体制、施設整備を行うこととなっております。私もそのことには大変期待をいたしております。

そこで、同時に診療所の経営も健全に持っていくことが求められます。歳入で、一般会計繰入金7,500万円以上を投入しながらの運営となっており、現在の診療所の経営は介護老人保健施設収益で何とか成り立っていると言っても過言ではありません。本来の診療所の運営をいま一度考えるべきときに至っていると存じます。

今後建設される予定の施設は、村民が安心して年をとり、住みなれた村で暮らすことができる施設であること、また近隣のまちからも気軽に利用していただける施設にするにはどんなふうにしたらよいか、さらに、収益が上がる施設にするにはどのような形式にしたらよいか、検討することが何よりも大切な課題だと存じますが、村長のお考えをお伺いいたします。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

今井保都議員の質問にお答えをします。

医療・福祉ゾーンの整備につきましては、改めて申し上げることではないかもしれませんが、東白川村老人クラブ連合会からの請願を踏まえ、私の選挙公約の重要な項目の一つに掲げ、就任以来、鋭意検討・調査、用地の確保等の活動を行ってまいりました。庁内のプロジェクトチームでの調査・研究、専門家による検討委員会を設置して検討をしてまいりました。また、その都度、議会の皆様にも報告を行い、計画を練り上げてまいりました。

用地の確保につきましては、就任以来、名古屋商科大学様に五加のセミナーハウス跡地の利用についてお願いをしてまいりました。幸いにも村の熱意と趣旨に御賛同をいただき、当初は賃貸借でお願いしていたところでございますが、50年以上福祉・医療ゾーンとして使用すること、栗本学園

の記念すべき地であるべきことを顕彰することなどを条件として、無償寄附をする旨の申し出をいただくことができました。こうしたことを必ず実施するというをお互いに確認する意味で、負担つき寄附案件として議会の同意と、名古屋商科大学側は、評議委員会、理事会の議決を得ることとしております。

名古屋商科大学では評議委員会では既に議決が済んでいたところ、12月1日の理事会で寄附が承認されたという連絡がありました。この後は、細部の条文の詰めを行い、覚書及び寄附採納の契約を行うように準備を進めております。このことにつきましては、次期臨時議会において、負担つき寄附採納の受納についての審議をお願いすることとしております。

医療・福祉ゾーンの整備計画については、この後、全員協議会で御説明申し上げ、御了承いただきましたら、来年早々に各地域で集落座談会を開催し、計画の内容を御説明してまいる所存であります。

そこで、診療所の経営の健全化についての御質問に対する私の考えを申し上げます。

診療所会計が、老健の収入で病院の一般病床時代と比べて改善されたことは事実であります。施設も人員も病院から有床診療所への転換を図って経営改善を図り、現在、7,000万円代の繰り入れまで縮小できたというのが私の見方であります。

また、中山間地域での医療や福祉、施設介護は決してそれだけで収支が黒字になるということではないということは認識すべきと考えておかなければなりません。これは、さきの専門家との意見交換でも委員からの指摘のあったことでしたが、不採算であっても、そこに医療と介護福祉の必要性があるから公立の病院や診療所の存在価値があるわけであります。しかし、それに甘えてはならないことも重要なことでございます。

今回の医療・福祉ゾーン整備計画では、施設だけでなく、診療所と福祉施設の機能連携や分担をはっきりと改革し、あわせて、これから進むべき道である地域包括ケア支援をしっかりと実現したいと考えております。幸い本村の医療・福祉部門には他地域にはない人材があります。診療所の運営方法や福祉施設の運営方法についてはしっかりと検討し、目的としています、議員ご指摘のとおり安心して老後が暮らせ、子育てができる体制をつくりたいと思っております。施設はそれを実現するためのものであるべきと考えております。

以上で答弁といたします。

〔6番議員挙手〕

○議長（服田順次君）

6番 今井保都君。

○6番（今井保都君）

今回、施設を一新する予定であるわけですがけれども、今申されました多額の予算を充当するために、本当に村民の理解を最大限得るためにも、診療所の経営改善をすることが一番大事ではないかと私は思っております。

そこで、平成25年度に東白川村診療所経営改善診断書というのを、村が依頼して宮嶋税理士さん

という方に調査してもらったわけですが、こういうことの調査が今の診療所の経営にどんなふうにかかっているのか、ちょっとそこをもう一度確認したいと思いますので、よろしくお願ひします。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

平成25年の改革の提言と申しますか、調査については私も了承しております、就任以来、このことを実現するように指示をしてきたところでございます。住民の皆さんが真に必要なとする診療所になるようにということで、具体的な項目を幾つか挙げるわけにはいきませんが、まずは職員の意識改革、そして診療時間の延長ということで、夕診は前からやっておったところでございます、土曜診療等の道も開いたというところでございます。

また、各医療機関との連携強化ということもございまして、その辺のところは今もしっかりとできておまして、重症が発見されたときにはバックアップしていただいております木沢記念病院、下呂温泉病院等に患者さんがかかっていた体制もできております。

また、夜間の医師の不在ということで、安心ホットラインというのを作りまして、看護師がまずは御相談に応じるような体制も整備しております。

経営改革につきましては、必要な設備を過剰に投資しないということもありましたので、その辺のところは具体的な案件はございませんが、備品購入等のときには精査をしてやっていっております。そういった努力が実り、また患者数は、人口減少も主な原因ではあるかと思っておりますが、減少傾向にあります。これに対応するようなスタッフの体制をとっていっております。

また、提言の中でありました医療スタッフの充実と申しますか、若返りと申しますか、このことに関連についても、どうしても職員も高齢になって退職者も出てくるということで、計画的に補充をしていかないと、新しい医療施設を整備してもこれが課題になってくるということで、今からそういうことについても対策を立てておるところでございます。

経営改善のこの項目がこうなったというようなことは、きょうは再質問ということで資料が手元にはないのでお答えできませんが、先ほどの数字のように、病院時代から思うと随分と改善をされてきたという認識でおります。

〔6番議員挙手〕

○議長（服田順次君）

今井保都君。

○6番（今井保都君）

今、答弁の中で村長も一般会計の繰入金7,500万円程度は、以前から見れば改善をされたという答弁でございました。行政側のほう、私もよくここを聞くと、交付税措置がなされているので、これはやむを得んやないかという意見もあるかと思っておりますけれども、現に27年度の1日の外来患者数を私もちょうと見ましたら、41.7人ですね。前は50人あったのが今は41.7人。本当に毎年毎年減少

して、あと2年もすれば、村の人口も2,000人を切るような状況になっていると私は感じております。そんな中で、今の状況を続ければ、外来患者も1日平均40人を切るような時代になることが予想されます。一般会計を繰り入れながらやっても、それぐらいになると、ますます一般会計繰入金の方が逆にふえるんじゃないかという心配を私もしております。

その中で、1日の患者数がこれだけ減っていくと、今、医師は2人体制でやっております。私も前に診療所改革委員会で当面は2人の医師が必要であるということも述べました。だけど、あれからもう5年たって、現在を見ますと、このような状況の中で、本当に医師が2人体制でやっていくのが村にとっては大事なのか、経営ということも頭に置いていかないと、村の中だけで6億ぐらいの概算で物を建てていくについて、本当に村民の理解が得られるであろうかということ私もちよっと危惧するわけですが、そういったことも含めて、もう一度診療所をどうするかということを実際に、きょうは所長はここに来ておりませんが、そういったことを総合的にもう一度洗い直して点検しながら、新しい施設をつくることに全力を挙げていくのがベストじゃないか感じておりますけど、その辺の村長のお考えをもう一度お聞きします。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

村民の皆様方が安心して暮らせるために診療所がしっかりと運営することは当然のことでございます。このことについて、医師2人が負託に応えるためには必要ということで2人体制をとっております。というのは、毎日の患者様の診療だけではなく、保健活動、予防注射、学校保健医、こういった業務もございます。そういったこともありまして、現在のところは2人でやっておるところです。しかも、その1人については、県の御理解をいただいて自治医科大学の派遣医師をお願いして、このことにつきましては、私どもで雇用するよりは、県の御協力もあって、比べてみれば低い費用で、医師確保のためには大変高額なお金がかかるということは皆さんの御理解をいただいていると思っておりますが、なるべく経済的な負担がかからない状況で、県の制度を利用して2人目の医師を確保しておるといった状況でございます。

このことにつきましては、私ども、県とは深いパイプをつくりながら、来年度につきましても、内定でございますが、また1人派遣は確定をしております。

今後、自治医科大学派遣医師の状況もなかなか人数が不足、要望のほうが多いところで厳しいところがございますが、鋭意努力をして、2人体制で持っていきたいと思っております。

地域包括ケアという概念を実施しようと思うと、やはり毎日の患者数だけで医師の数を判断するのはいささか不適當ではないかと思っております。

もちろん今後、新しい体制にするときを契機に、なお一層の経営改革というのはやりますし、職員の配置等の再チェックもやる、あるいは就業体制のことについても再検討させていただきます。

ハードについては、そういった内部のいろんな検討を経た上で、どういう診療施設が必要なのかとか、診療所について、検査室が必要なのかというのはこれから決めてまいります。ハードをつく

る場合には、建設委員会をまた設置して、その中で住民の皆さんの御意見も聞きながら、議会の皆さんの意見も聞きながら、設計を進めてまいりたいと思っております。

それに合わせて、ソフトについては、十分診療所の専門スタッフによる議論を尽くして、また専門家の意見等も聞きながら、適正な、今、議員の御指摘どおり、少子・高齢化、人口減少時代に対応でき得る医療体制というのを確立しておきたいと思っております。

患者数の減少については、いろいろ分析はされるわけですが、慢性疾患の減少とか、あるいはひょっとしたら疾患によっては増加している部分もあるということなんですけれども、そういった疾患のこれからの状況等も考えながら、専門医との兼ね合い、そういったことも考えながらやっていきたい。

また、地域の実情を見ますと、隣の白川町さんのほうの医療の状況もまた刻々と変化をしておるという情報も入っております。新しい体制については白川町さんとも十分連携をしながら、それに対して検討を加えていきたいということをいつも話し合っておるところでございます。このことについても議会の御意見もいただいてまいりたいと思っております。

具体的な数字がまだありませんので、概念的なお答えしかできませんが、身の丈に合ったという言葉をよく使うわけですが、無駄なものはつくる必要はございませんし、無駄な人員も要らないかとは思いますが。ただ、将来的なことも考えながら人員配置というのは必要ですので、一時的にはだぶついた状態があるかもしれませんが、年齢構成とか、職員の退職の予定とか、そういったことも全て勘案しながらの体制をつくっていく必要があります。今後とも診療所の経営改善については鋭意努力をしていくということでお答えとさせていただきます。

○議長（服田順次君）

次に、4番 樋口春市君。

〔4番 樋口春市君 一般質問〕

○4番（樋口春市君）

今回は、村の職員の採用について質問をさせていただきます。

現在はスクールバスの運転手、公用車（村長車）の運転手は、長年の乗務経験を重ねてきておられる方々に頼り切っているのが現状です。運転技術は申し分ないわけですが、長年にわたり御苦勞を重ねてこられた人たちにいつまでも頼り切っていかなければならない状況は村民の皆さん方の不安につながっているものと思います。

村長は、事あるごとに子供たちは村の宝だと主張されておりますが、村民の皆さんの大切な子供たちの登下校の送迎をするわけですので、それなりの体制を整えていただく必要があるものと思います。

この仕事は子供たちの送迎でありますので、さまざまな面で気を使い、神経的にも体力的にもかなり疲れ、大変御苦勞な仕事であるものと思います。

正規の職員を配置した上で、臨時の職員の方たちに助けていただく体制を整えていただくことが安全・安心につながるものと思います。

職員の方たちの高齢化が進んでいくことは以前から予測できていたものと思いますが、これまで徐々にでも補充されてこなかった結果、今日のような状況になっていることについて、どのようにお考えですか。

今後、スクールバスの運転手の正規採用と、公用車の運転手の正規採用をどのようにお考えか、お伺いをいたします。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

樋口議員の質問にお答えをします。

スクールバスの運転手と村長車の運転手についての御質問であります。

まず、現状を説明させていただきます。

現在、スクールバスの運転手は正規職員の主任運転手1名のほかは、62歳から71歳までの6人と雇用契約を結んで仕事をさせていただいております。スクールバスの運転手は原則70歳までとしておりますので、71歳の方は、何らかの事情でどうしても運行に支障を来した場合のバックアップ要員として考えており、これらの運転手でバス3台を運行しております。

議員御指摘のように、最近、高齢者の方の交通事故報道も目につくところであり、御心配の向きはよくわかりますが、運転手をお願いした皆さんは、皆さん健康で、健康診断も受けていただいております。勤務時間についても十分な休息をとれるよう配慮をしております。

今までに計画的な採用を怠ってきたのではないかという御指摘もございましたが、正規の運転手の募集を行ったこともございましたが、なかなか応募がなかったというのも現実であります。また、行財政改革を進める観点から、定年退職後の方々を雇用するよう努めてきたことも事実であります。

しかし、子供たちの安全が第一位のことは申すまでもなく、その採用に当たっては、人格、運転技術とも問題ない方をしっかりと採用してきていることは御理解をいただきたいところでありますし、現在の運転手の皆さんはベテランであり、何ら問題はないものと思っております。

しかし、人は必ず年をとることであり、いつまでも今の体制でいくわけにいかないということは重々承知をしております。職員採用計画では、来年度、正規職員を1名募集する計画であり、平成30年度から採用の予定を既に立てております。全員を正規職員にすることは現実的ではないと考えており、今後も60歳から70歳までの年齢の方にも御活躍をいただいてまいりたいと思っております。臨時雇用のほうも随時募集をし、補充をしてまいりたいと考えております。

村長車の運転には正規の職員を充てることは考えておらず、こちらは75歳まで働いていただきたいと考えております。スクールバスやマイクロバスの運転手も含めて、安全運行のできるように、そういった方をお願いをしていく考えであります。

以上で答弁といたします。

〔4 番議員挙手〕

○議長（服田順次君）

樋口春市君。

○4番（樋口春市君）

少子・高齢化が続く中で、30年度に1人の新規採用を目指すという御答弁ではございましたけれども、村内にこだわることなく、村外の方でも、できれば一人でも多くの方に新規採用をお願いしていただきたいというふうに、保護者の皆さん方の本当に大切なお子様を送迎するわけですので、真剣に考えていただきたいと思えますし、村長がおっしゃってみえる村の子供たちは宝であるという御意見に関しましては私も本当に同感でございます。今後の村の担い手として、どうしても子供たちはしっかりと安心・安全に生活をしていっていただかなければなりませんので、その点十分にこの場で新規採用に積極的に取り組んでいくというような御答弁をもう一度お聞きしたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

子供たちの安心・安全を図るために大切な業務であるということは当然の認識でございます。ただ、正規職員全員でやるべき姿が、全体を考えて安心・安全を担保できないかというところは私には考えておりません。しっかりと運転手さんたちの労務管理だとか、それから柱となっていく職員は正規職員であるべきであると考えて、現在1名でございますが、補充をしていくということで思っております。

ただ、62歳からというのも現実なんですけど、定年退職後の業務用のバスを運転してみえた方を今年度採用しておられるようなことも例にあるとおり、その人の運転技術や人格が臨時だからだめということではなく、臨時職員であっても、村の雇用契約を結ぶ折には公務員と同じような宣誓もしていただいて、しっかりと安全運転を確保していくということでございます。

確かに全員を正規職員というのは理想かもしれませんが、柱になるところは正規職員、そしてそれらをサポートする形で、今こういった高齢者社会ですので、十分定年退職後も働ける皆さん方があるわけですから、こういった方々にある意味雇用の場としての提供も必要でございます。

議員御指摘のとおり、村内に限ることなくということでございますが、なかなかバスを運転するという技術は普通の人ですぐできるわけではございませんので、広く募集もしていかなきゃいけないというのは同じ認識でございます。できれば村内で生活いただく方に地域に密着した形で就業していただくのがベストだと思いますが、そういう方もなかなかいないというのが現実でございますので、今後とも機会あるごとに募集をして、しっかりとした体制を維持することをお約束させていただきます。

〔4番議員挙手〕

○議長（服田順次君）

樋口春市君。

○4番（樋口春市君）

ぜひとも保護者の皆さんを初め、子供たちが安心・安全に登下校できるような体制を一日も早く整えていただきたいなということをお願い申し上げまして、質問のほうを終わります。

○議長（服田順次君）

続いて、1番 今井美和さん。

〔1番 今井美和君 一般質問〕

○1番（今井美和君）

村の水道、浄化槽、消火栓の整備について質問いたします。

村の水道は、大明神水系は平成4年から整備が始まり、平成9年に完成、曲坂水系は平成11年から始まり、平成16年3月に整備が終わり、16年4月から全村水道化が整いました。平成28年5月の時点で96.45%の普及です。

浄化槽は、水道が整備され始めてからの平成6年、7年ごろからふえ始め、国3分の1、県3分の1、村3分の1の補助を受け整備されています。そして、水道整備に伴い、消火栓も設置されています。

現在、村では空き家を活用するための政策が行われています。空き家バンクに登録していただき、ホームページ等で住民を募集しますが、なかなか空き家になった家は改築等にお金がかかり、すぐに住める家はないようです。

そして、28年度の空き家バンク登録数は6件、うち2件は仮契約ですが、残りの4件中3件は水道、浄化槽が整備されていない空き家です。

空き家対策登録の家だけでなく、今現在暮らしている方も、水道、浄化槽、消火栓の整備が整っていない場所がありますが、衛生面を考えても確保したい整備です。

1つ目の質問です。今現在、消火栓のない家があるとお聞きしましたが、消防法では問題ないとしても、初期消火活動に欠かせない消火栓は村が整備をしたいと考えますが、村長はどのようにお考えでしょうか。

2つ目の質問は、Iターン、Uターンされる方のために、水道、浄化槽整備の補助は現在どれくらいされているか。

そして、3つ目の質問です。村に水道工事が始まってから24年、時代も変わり、世代も変わりました。新たに水道工事が必要になる場合、村が対処する方法は整っているか。東白川村簡易水道分担金条例では、分担金41万1,000円を払えば水道が引かれることになっておりますが、給水区域内なのに別途自己負担金が発生すると思われる方もおります。村長はどのように解釈されているのか。

住みよい村であるために、住民が平等に受けることのできる生活環境をつくっていただき、今後も空き家バンク利用者や村に帰ってきたい方がふえ、東白川村での生活が安心・安全で暮らせる水道、浄化槽、消火栓の整備について、村長に伺います。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

今井美和議員の質問にお答えをします。

村の水道、浄化槽、消火栓の整備についての御質問であります。

まず、1つ目の質問で、消火栓についてですが、現在、村内に消火栓は452基設置してあり、御承知のとおり初期消火には大いに役立つ設備であります。平成19年度から27年度まで、建物火災で4件、その他火災で8件、この消火栓を使った初期消火が行われております。

消火栓を整備するには1基40万円程度の費用が必要であり、本管からの水道管理設には1メートル当たり約2万円が必要であります。今後とも消防団や地元からの要望があり、真に必要と考えられる場所については、費用対効果で妥当であり、水道施設として設置可能であれば、整備をしてみたいと思っております。

今申し上げました条件に合わない空き家などに新たに住み始められました場合の防火対策については、消防団や消防署とも相談して、屋外に消火器を設置するなどの対策を講じてまいりたいと考えております。

2番目の質問でございますが、東白川村定住促進条例、同施行規則に規定しております細部の決まりはございますが、村外から定住を目的として住宅等を新築、あるいは中古住宅を取得、そして改修などを行われたときに助成することになっております。その中身でございますが、新築の場合は、水道加入分担金40万円還付、浄化槽設置補助金50万円上乗せ、CATVの加入金10万円還付、Iターン・Uターン助成金が50万円。中古住宅を購入された場合の奨励金は、水道加入分担金40万円還付、浄化槽設置補助金50万円上乗せ、CATVの加入金10万円還付、Iターン・Uターン助成金がここは30万円となっております。また、住宅を改修された場合の奨励の助成金は、水道加入分担金40万円還付、浄化槽設置補助金50万円上乗せ、CATV加入金10万円還付までは一緒でございますが、Iターン・Uターン助成金は30万円というふうになっております。

このほか、村営住宅の家賃助成等も3年もしくは10年間、1万円を減額することと、扶養している同居親族の子供1名について2,500円を減額するというのもございます。

さて、3番目の質問でございますが、新たに水道工事が必要になる場合の個人の負担について、給水区域の考え方について御説明をします。

議員御指摘のように、新規の加入の場合は、加入分担金は13ミリ口径で41万1,000円でございますが、このほかに、東白川村簡易水道給水条例では、第9条で新設等の負担について定めており、給水設置工事に要する費用は給水装置工事申込者の負担とするとしております。また、ただし書きにおいて、村長が特に認めた場合は村がその費用を負担することができるとなっております。このただし書きの部分については、例を挙げますとエコトピア政策、過去にありましたように村が新たに住宅用地を整備し、新しい住宅を誘致した場合などが想定をされてまいります。

次に、給水区域についての考え方でございますが、条例では村内全集落の一部と規定しております。この一部というところは、同条例第2条で、配水管の設置していない箇所、または水圧等の関係で給水できない場所と認められる場合は給水しないことがあるというふうに定めており、当初計

画で申し込みがなかった地域、地点等において、地形等によりまして配水管が配置できないところは給水できない場合もあるよということでございます。ただし、給水を受けようとする者が一切の費用を負担するときは給水をする事ができるとしております。以上が給水に関する規定でございます。

私が常に目標としている、皆さんが安心・安全に暮らせる村づくりには、防火・防災、水道や浄化槽といった生活に密着したインフラの整備には真剣に取り組む所存であります。

一方で、人口減少社会に対する定住促進政策には、特に仕事、住宅が一番最初の課題であることは就任以来常に考えてきたところであり、議会の皆さんからの御意見も多くいただいている観点でございます。

そして、住宅政策の中に空き家の活用という課題もございます。現在、空き家対策は、移住を希望している方に空き家バンク情報を提供しているわけであり、空き家情報の精度を高めるために現在データ化を進めているところであります。

ただいま答弁したとおり、水道については全ての空き家に整備されているわけでもなく、どちらかという未整備の物件が多く見られ、水道を引くためには多額の負担が必要になるわけございまして、これらの情報もきちんと明示をしまいたいと考えております。

古民家を希望の方への対応は、情報提供とあっせんという形で対応し、新たな雇用を生むための住宅や子育て支援のための村営住宅は今年度建設中の中通単身用住宅のように、村営住宅マスタープランによる従来の住宅の計画的な改修や新たな村営住宅建設で計画的に実施をしまいたいと思っております。

以上で答弁とします。

〔1番議員挙手〕

○議長（服田順次君）

1番 今井美和君。

○1番（今井美和君）

消火栓については今452基ということで、19年から27年に整備されてきて、でも、1基40万円かかり、1メートル当たり水道を引くのに2万円かかるということで、何分財政が苦しいことは重々承知しておりますが、村民の安心・安全にはかえられませんので、これからも調査、整備を進めていっていただきたいと思えます。

2番目の質問のIターン・Uターンへの補助なんですけれども、村長、しゃべるのが速過ぎて、ちょっと書けなかったんで、数字がよくわからなかったんですけど、村に住みたい、村に帰ってきたいという方にはこれだけたくさん補助があるということはわかりました。たくさんありますが、村の方がこの補助のことをなかなか理解していないことが現状です。できれば、村の方が、こういう補助があるから村に住んでみんかと言えるような、村の方にもう少し周知をしていただけたらいいと思えますが、村長のお考えはいかがなものでしょうか。

そして、3番目の質問の今後の水道工事についてですが、村の簡易水道が始まって、先ほども話

しましたように24年たっています。最初に配管されなかったところにはそれなりの理由があると思いますが、水道を引くのはすごく膨大なお金がかかるというのはわかるんですけども、これから移住・定住を促進していく上で見直さなければいけない問題だと思っております。

そして、配管に至っても、24年たって、この管の耐用年数というのはどれくらいなのか。先月、大明神地区で水道管の工事をするために断水したそうなんですけど、その後、出てきた水がさびだらけの水だったと。少し不安を感じたという方も見えたので、永久的に使えるものではないことはわかっておりますが、管を新しくしていく計画はあるのかということもお尋ねしたいと思います。

そしてもう一つ、村の水道分担金条例では、先ほども話されましたとおり、口径13ミリのものが分担金41万1,000円です。41万1,000円ってすごく高いような気がするのですが、見直しをされる予定はないですかということと、あと管内はどれぐらいの金額かと思ってインターネットで調べてみましたら、富加町が21万6,000円、七宗町30万円、川辺町21万6,000円、坂祝町17万5,000円、八百津町31万4,500円。値段的には、土地というか、平地、山、洞がいろいろあるので、高いのはわかるんですけども、時代に合った金額を少し検討していただけないかと思えます。

それから、お金が問題ではなくて、一番問題にしたいのは、この条例は全てインターネットで手に入れたんです。加茂管内、東白川村以外、全部インターネットで条例が手に入りました、分担金条例も給水条例も。ただ、村だけ手に入らなかったんですね。先ほども言いました村民への周知ということに関しても、やはりこういう条例とかは村民に見える状態にさせていただきたいと思えますが、今後その条例を制定するというか、公開する予定はあるのか、それだけお聞きします。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

幾つか再質問いただきましたので、順番に整理をしてお答えをします。

まず、消火栓につきましては、確かに費用もかかりますし、新しくうちが建ったときにどうしても必要ということがありますが、ただ物理的に配管しても圧力が足らなくて、つくっても水が出ないという条件のところもあるわけで、全てを新しいところに配備していくことは無理です。先ほども答弁しましたように、そういう無理なところには大きい消火器の配備とかいうことで代用していく必要があるのではないかと思います。

最初の計画の中で、どこの橋を渡って、どこの道路を通過するというようなことが計画されておまして、それ以外のところへ配管しようと思うと、先ほど言いましたように多額のお金がかかるということで御理解をいただきたい。やらないというわけではございませんが、状況判断をしていきたいというふうに思います。

それから、住民への周知につきましては、一番最後にありました質問と一緒にあわせてお答えします。必要なことだと考えております。

条例等がネットで見られる状況については、今年度から3年計画で、ことしの方は予算をお認めいただいて、今、委託をして整備に入りました。全体では700万円ほどかかるという見積もりでござ

ございましたので、どうしても単年度ではできなくて、3年間かけて条例公開の整備をしております。したがって、29年度途中、あるいは30年度の頭の辺のところでは、順次整備できた条例から公開ができる体制をとっていけると思っておりますので、御理解をいただきたいと思えます。

前々から御意見が多かったところですが、なかなか財政的理由でおくれてきたんですが、今年度予算化しておりますので、御理解をいただきたいと思えます。

それから、配水管の耐用年数の関係ですが、村内には塩化ビニール管と、鑄鉄管と申しまして、鑄造された鉄管が場所によって混在をしております。耐用年数については、塩化ビニール管は30年、鑄鉄管は50年という、今、正確なデータはございませんが、まずそういう思いでございます。したがって、議員御指摘のとおり20年を超してきましたので、今は電装設備等、あるいは配水池等の耐用年数を越えたものについて順番に更新をしていっているところは御理解をいただいているところでございますが、今後は配管についても計画を立てて、順番に更新をしていく必要は当然でございますので、予定をしまいたいと考えておるところでございます。まだ現在、計画はございません。

それから、この41万1,000円が高いか安いということと、安くする気持ちはあるかというところでございますが、今、議員御紹介いただいたように、やっぱり平地のところと山間地域の差がよく出ている数字が御紹介いただけたかと思えますが、政策的に一番最初に水道を普及するときに、今入っていただければ、20万か25万ぐらいの開設負担金で水道が引いていけるよという中で、その当時ですけれども、簡易な給水装置でやっていた集落を全村挙げて簡易水道に転換していくための誘導策として、ちょっと高額などいいますか、当時としては差がある政策をとられ、今引いていただいたほうがいいよということで1線だけ立ち上げられた方もたくさんあったと。住宅の改装等でそれを今利用して、宅内配管も自分でされて、水道を使っていたところもたくさんあるわけですので、こういった歴史を考えたときに、この41万1,000円を今ここで安くするということが東白川村の全員の皆さんの御理解がいただけるかどうかはまだ確定ができません。今後、御議論をしていただいて、集落座談会等で例えば上げていただいて、御意見を集約していただいて、まあ20年もたったでということで、新しく入ってくる方には給水戸数をふやすほうがいいやろうということで御意見も出てくれば、その時点では考えたいと思えますが、給水の量ということも課題でございまして、水がふえるわけではないので、ある程度、人口は一遍に爆発的にはふえませんが、そういった心配は無用かと思えますが、その兼ね合いもありながら、全体の配管、貯水池の量とか決めてありますので、そういったことも観点に入れながら、新しい加入も認めていくということも必要かなと思っております。

最初答弁で申し上げましたように、どうしても引けない物理的などがございまして、何千万もかけないと1軒が引けないという状況も出てくるわけでございますが、そういったところへの御理解もいただきながら、この41万1,000円が高いか安いかというところについては議論を尽くしてからでないと、今ここで安くする考えがあるというような答弁はできない、そういうふうに考えております。御理解をお願いします。

〔1 番議員挙手〕

○議長（服田順次君）

1 番 今井美和君。

○1 番（今井美和君）

一番最後の41万1,000円が高いか安いかわかるということで、その当時、平成4年のとき、入るときに25万にするから、みんな入ってください。それ以外のときは41万、高くなりますよということで呼びかけたことは私も聞いておりますが、やっぱり時代も変わってきたので、もう少し皆様に今のこういう水道の状態だということを理解していただくことと、あとIターン・Uターンには41万1,000円が後で還付されるということですごくありがたい。お金は結局要らないということになるわけで、今、村に住んでいる方はそうじゃなくて、新たに41万1,000円が発生する場合もあるので、ちょっとそこは今後また考えていただきたいと思います。

住みよい村の環境をつくっていただくために、今後もいろんな御検討をよろしくお願いします。以上です。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

定住促進の目的があつて、こういったいろんな奨励策があるということですので、人口が減ってしまうと社会的機能が損なわれていく心配があるということで、各地域ともこういった奨励策を持って、よそから移り住んでいただく方をいわば優遇している。これは政策目的があつてやっていることですので、それと、村民の皆様方で今引いていない方が引く話とはちょっと議論の論点を違えて論じなければいけないというふうには考えます。

先ほども申しましたように、村民の皆さんの合意が得られれば、20年たったからということで加入金についての議論が起これば、十分検討はさせていただきます。

以上で答弁といたします。

○議長（服田順次君）

ここで暫時休憩に入りたいと思います。10時55分から再開いたしますので、よろしく願いをいたします。

午前10時47分 休憩

午前10時55分 再開

○議長（服田順次君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問の続きを行います。

2 番 今井美道君。

〔2 番 今井美道君 一般質問〕

○2番（今井美道君）

初めに、本村のまち・ひと・しごと創生寄附活用事業、いわゆる企業版ふるさと納税の取り組みについて質問いたします。

個人の方対象のふるさと納税制度は、本村も、広報活動や返礼品の見直しなどによって寄附金額も増加し、また返礼品を選択いただく上で村内の産品が消費され、村内の農林商工業の活性化の一部として大いに役立っている制度であります。

政府は新たに企業版ふるさと納税の制度を策定し、道府県、または市町村に対し募集を行い、8月2日には第1回の事業認定を行いました。全国で102件の事業が認定され、岐阜県内では8つの事業が認定されました。9月に行われた第2回の募集では、先日、11月25日、中津川の2事業を含む55件の認定が行われました。

ここで簡単に企業版ふるさと納税制度について述べますと、この制度の目的は、地方の財政難や大都市と地方の法人関係の税収の偏りを是正し、自治体の観光や産業振興などの取り組みを後押しする狙いで創設され、自治体は寄附を受けるために事業を国に申請し、認定を受けることによって、寄附を受けるための窓口を開くことができます。

企業にとっては、現行の寄附行為では寄附金額の約30%の減税効果であったものが約60%の減税になり、現在は企業の社会的責任に対して注目度も高く、ふるさと納税を通じて、自治体や地域、そこで暮らす人とのつながりができるメリットがあります。

11月25日に県内42市町村の普通会計決算が公表されました。その中でもマスコミ等に注目されるのが財政力指数です。複雑な計算式はありますが、自治体の財政力を示す指標ですが、最上位は岐南町で、最下位は東白川村と発表されました。

依存財源に頼らざるを得ない状況は理解しますが、自主財源をふやせるチャンス、東白川村の応援団をふやすチャンス、現在応援していただいている企業様にもこの制度を活用することによりメリットが大きくなる制度です。

地方創生を推進する上で効果の高い事業を申請するわけで、今年度、または年度をまたいだ事業やプロジェクトが東白川村にもあるわけですが、この、いわゆる企業版ふるさと納税、2回の応募に対して、どういった取り組み、検討が行われたのか伺います。

次に、屋外スピーカーの設置完了に伴う検証と今後についてを質問いたします。

3月の議会定例会の一般質問において同様の質問をいたしました。村長の答弁において、「効果を見きわめたい。28年度当初予算では結果が出ていないので予算組みはしていない。検証し、住民の皆様から意見、議会からの要望があれば対応していく」という答弁をいただきました。

3月に行った議会主催の地区座談会でも、どの会場においても屋外スピーカーについての要望や質問がありました。

それを踏まえて、7月14日の委員会視察の折に、総務常任委員会から要望書を提出させていただきました。その中でも要望として盛り込ませていただきました。

現在のところ、全員協議会等での検証結果報告もなく、来年度の予算編成方針も伺いましたが、

触れられていませんでした。

昨年度に設置済みの3カ所の修正作業を急いでいただきましたきっかけですが、現在までにどういった検証が行われてきたのか、長期的・短期的に取り組まれるお考えがあるのかを伺います。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

今井美道議員の御質問にお答えをいたします。

まず初めに、企業版ふるさと納税についてでございますが、その内容や事業効果については、議員から御説明のあったとおりでございます。

そこで、この企業版ふるさと納税に対する本村の取り組みと検討の経過についての御質問をいただきました。

この事業は、国が進めていますまち・ひと・しごと創生事業として創設された制度で、先行して実施されましたいわゆるふるさと納税制度と似てはおりますが、政策立案のスタート位置が異なっております。

国・県では、今年度当初に今年度の地方創生に関する説明会が開催され、地域再生計画、地方創生推進交付金とあわせて説明がありました。

その内容についてでございますが、この企業版ふるさと納税を活用する場合は、地方推進交付金と同じく、地方総合戦略と地域再生計画に記載された事業であること。2つ、基金への積み立てをする事業は該当しないこと。3つ目に、当然ですが、本社が所在する地方公共団体への寄附は対象外。4つ目ですが、寄附の代償として、寄附者が経済的利益を伴わないものであること。次に、従来から行っている事業について、創生寄附活用事業、この企業版ふるさと納税のことでございますが、単なる振りかえはだめであるということ。再生計画の申請時点において、1社以上の寄附を行う法人の見込みが立っていること。国の補助金や交付金の対象となる事業の地方負担分について寄附を充てることはできない。以上のような制度上のいわば縛りがあることが判明しました。

これらのことを検討して、本村は地方創生に関しては、推進交付金や、今申請をしております拠点整備交付金を活用することに決定をしました。

しかし、今後の地方創生関連の事業展開の中で本制度が活用できる事業があれば、寄附をいただける企業をお願いし、活用することも視野に入れております。

次に、2つ目の質問である屋外スピーカーに対する質問でございますが、御承知のとおり、現在、村内には越原センター、村民センター、五加運動場に設置をしております。

先般、検証するというお答えをしたところでございますが、検証については、専門家等による検証は行ってはおりませんが、8月末の総合防災訓練の告知や選挙結果の放送等を踏まえ、ある程度の周知に効果があるということでありました。また、先ほど御質問の中にあつたように、何よりも村民の皆様方から要望が多くあつたということでございましたので、この意見を無視することなく、今後、村内全村カバーとはいかないまでも、拠点ごとに整備をしていく方針であります。

先日の予算編成方針に全ての事業を網羅しているわけではないことも申し添えておきたいと思いますが、事業費については、鉄塔を建ててまいりますと1基250万円ほどかかるということでございます。まずはその半分ぐらいの費用で設置できる各地域の集会施設の屋根に順番に設置をしてみたいと考えております。

1年に何基、また場所はどこからということについては、新年度予算に向けて、今、担当が計画を練っております。この結果については予算審議の中で御審議をいただくことになると思います。

以上で答弁といたします。

〔2番議員挙手〕

○議長（服田順次君）

2番 今井美道君。

○2番（今井美道君）

まず2つ目の質問の屋外スピーカーの件については、検討いただけるということを今初めて伺いましたので、今後、全協などでも御協議させていただけると思いますので、質問のほうはこれで終わらせていただきます。

企業版ふるさと納税について、再質問させていただきます。

村長、一通り内容の説明をいただきました。これ難しいのは、多分やっぱり総合戦略にのっていることと、地域再生計画の認定制度ということで、そこにまたその事業を申請しないとイケないということかなと思います。

また、目的や事業認定の分野、今回認定されたものにつきましては、かなり大きなくくりであって、何年もかけた事業等がのっておるので、地域振興、観光振興、農林水産振興、人材育成、移住・定住促進、少子化対策、本当に当村にも全く当てはまる分野ばかりなんですけど、この中に補助金がもらえるもの、交付金がもらえるものについては当然もらうんだけど、そのほかの部分企業の方の理解を得てもらって、この目的なら企業として応援してもいいよということで、企業の方に問いかけていくというのがこの制度だと思うんですけど、補助金・交付金を使えるものを申請していただくのは間違いないところなんですけど、先ほど私が申しましたように、応援団をふやしていただけるチャンスということに関してなんですけれども、現在でも東白川村にたくさん企業様、応援団になっていただいているところがあるわけなんですけれども、そういったところに、例えば村長が今年度補正で出てくる、きへんに対して力を入れる事業であるとか、そういったものなんかは新しい事業ですし、補助金や交付金を申請しながら、企業さんにもこういったものに応援していただくということが検討としてできたのではないかなというふうに思っております。

現在、そういったいろんな条件の中でも事業認定を受けているところがかかなりあって、岐阜県は県でも1つ受けていますし、市町単位でもかなり受けていますし、特徴的な事例としては、当村と同じ美しい村連合に加盟している奈良県の吉野町ですね。こちらでは、木材産業活性化プロジェクトとして事業認定を受けているということで、これなんかかなり大きなくくりでやってみえたので、その中の詳細を見てみると、結構細かくこういったことをやりたいということが書いてあるので、

うちも同じようなことでできたんじゃないかなと。余りハードルを高く見積もられ過ぎたのかなという気はするんですけど、これなんか、K P Iで木材製品出荷額で5年間で2億ふやしますよと。5年計画ということで、大きい目標に向かってやっていく。その中に、企業さんの援助というか、そういったことをお願いしていくということで、今、ホームページでも検索できますし、ほかの地域のものでも、結構おもしろいもの、結構具体的なものが出ているので、これが総合戦略にのっていたのかなという、そこのところまで確認はしておりませんが、各地域では結構重点を置いてやってみえるんじゃないかなというふうに思いますので、もう一度だけですけれども、今回、2回が終わりまして、来年度、29年度事業を想定して、1月に第3回目の申請が行われて、3月に認定されるという3回目の募集があるんですが、これに取り組んでいかれるお考えがあるのかということをお聞かせください。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

私も情報としては、第1回の申請の内容等も確認を資料でさせていただいております。先ほどもお答えしましたように、今年度については、早急、喫緊な事業があるということになりますと、なかなかこういった企業様へ趣旨をお話しして、1件の確定的な企業を得るためには人的にも時間的にも厳しいという判断をさせていただいております。その結果、今、推進しています拠点整備事業のほうが確実な財源として担保できるであろうということで事業計画を立てたということでございます。

現在、森林関係でいろんな企業の方に御寄附をいただいておりますが、それぞれの企業はそこで社員研修をやったり、水源涵養の観点で企業イメージを上げるためにというような形で御寄附をいただいている部分がございます。こういったことがこの事業としてマッチングするかどうかの検討がまだされてはおりませんし、それぞれ企業も思惑があって御寄附をいただいておりますので、これは相手のあることです。今こういった制度もありますというお話はできるかと思いますが、何よりも地域再生計画という大きなプロジェクトの中に取り込んだ事業にしておかないと、今御説明あったとおりに認定はされないということでございます。

そういうことで、今後、新しい事業を考えるときには当然財源の視野として入れますけれども、悲しいかな、決定的な財源をしっかりとって、起債も借りて、そして一般財源の支出を少なくして、事業を展開しないとできない我が村の財政状況というのは、今、御説明のあったような町、市、県がどういう状況かわかりませんが、余裕があるというか、結局1件だけを見つけてきても、その後は反動のような形で、その事業に賛同する企業が何件も来ないとある程度の資金の造成ができないわけでございます。喫緊にやりたい事業にその募集をしたときにどれだけ企業が寄附してくれるかわからないような状況で我が村は事業を推進するほどのゆとりはないという判断で、しっかりと交付金であるとか、あるいは起債であるとかいうものが活用できる事業展開をやっていないと、3年、5年というスパンで考えるわけにはいかない状況もございまして、現在進めております

今の木材関連産業への後継者対策事業については喫緊の課題という認識でございますので、新しい10月募集の今の拠点整備交付金が施設整備もオーケーになってきたというところで展開を始めたというところでございます。

議員御指摘のとおり、大きなプロジェクト、これからも考えていく必要があるかと思いますが、先ほども説明したように、例えば医療・福祉整備ゾーンなんかは保健福祉の分野での補助金をとりますので、その補助残について、こういったことをやってはいけないよというのが緩和されない限りは確実な財源がとれないので、とても財源としては考えられない。もう少しゆとりを持ってやる事業については、いろいろ細かいことを網羅した中で対象にできることもあるかと思いますが、いずれにしても企業さんとの交渉といいますか、しっかりとした事業内容をアップしまして、それによって、企業がこれなら寄附をしてもいいなという思いになっていただけるような事業を構築していかないと、寄附をしっかりといいただけないということも事情にはあるかと思えます。

現在、いろいろな御協力をいただいている企業さんには当然御紹介していきますが、今度はただ寄附だけじゃなくて、こちらの事業を説明して寄附をいただくことになりますので、今やっただいている寄附については、それぞれ企業の思いがあって事業費を出しておっていただきますので、なかなかマッチングできないのかなという観点で思っております。

再度になりますが、今後の展開については、各地域の事例等を参照して、使えるときはしっかりと使っていきたい。先ほど御指摘のとおり、どんな財源でも有効なものは活用していかなくや、この村の政策は進められないという状況は共通認識でございますので、活用できる部分がありましたら活用してまいりたいと思っております。

以上で答弁いたします。

○議長（服田順次君）

次に、3番 桂川一喜君。

〔3番 桂川一喜君 一般質問〕

○3番（桂川一喜君）

地域住民生活等緊急支援のための交付金（地方創生先行型）の上乗せ交付金事業について。

9月定例会において、行政を評価する方法の一つとして、住民との対話が必要であるという趣旨の質問をさせていただきました。

今回も、事業評価のあり方の観点から、地域住民生活等緊急支援のための交付金（地方創生先行型）の上乗せ交付金事業について、大きく2つの質問をさせていただきます。

昨年度、内閣府の地方創生推進補助金として、地域住民生活等緊急支援のための交付金（地方創生先行型）の上乗せ交付金として、東白川ファンを核とした村内製品の販売促進事業、東白川村公式ホームページ連動ECサイト構築に3,000万円、山林資源促進ツール作成事業、フォレストスタイル事業プロモーション映像制作に1,000万円の交付決定を受けました。

今回の交付金事業の最大の特徴とも言えるのが、事業評価方法にKPIが導入された点です。KPIとは、Key Performance Indicatorの頭文字をとった略語で、日本語では重要業績評価指数と

訳され、目的を達成するための過程を計測するための中間目標を示します。中間目標となっていることから、本来は最終目標というものも存在すべきものです。

そこで、まず1つ目の質問ですが、本村が交付金を受けた先ほどの2事業において、最終目標はどのように設定されており、中間目標をどのように設定されているのか、お答えください。特にK P Iの観点から、できるだけ具体的な数値としてお答えいただきたいと思います。

交付決定のための条件の一つに、K P Iの検証と事業の見直しのための仕組み（P D C A）が整備されていることとあります。P D C Aとは、Plan（計画を立てる）、Do（実行する）、Check（評価する）、Action（改善する）のそれぞれの頭文字を並べた言葉です。

明確なP D C Aメカニズムのもとに、短期・中期の具体的な数値目標K P Iを設定し、政策効果を客観的な指標により検証し、必要な改善等を行う。すなわち目指すべき成果が具体的かつ適切な数値で示されており、その成果が事後的に検証できるようになっていなければならない。また、成果の検証結果により、取り組み内容の変更や中止の検討が行われるプロセスが組み込まれており、その検証や継続的な取り組み改善が容易に可能である必要があるということです。

K P Iの設定や事業結果の検証などに当たっては金融機関や外部専門家が関与し、客観的な検証を行うことや、検証プロセスの透明性の確保などの工夫を行うことなどが指示されています。特に透明性の観点においては、住民、企業、金融機関、教育機関などから得た意見がどのように反映されているかについて公表する仕組みを持っていることが上げられております。事業結果の検証により、事業内容の変更や中止の改善等が機動的に行えるよう、事業の利用者にあらかじめ周知する仕組みを整備すべきだとの指導もあります。

そこで、最後の質問になりますが、これらを踏まえて、これらの2事業において、住民、企業、金融機関、教育機関、その他外部専門家がどのようにかかわっているのか。そして、かかわった結果がどう反映され、過程・結果がどう公表されているのか、お答えいただくとともに、それらの計画や予定がどう関係者に説明されているのかをお答えください。特に透明性という観点においては明確なお答えをお願いします。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

桂川一喜議員の質問にお答えをします。

地方創生事業の事業目的についてと、住民代表、企業、金融機関と有識者会議の事業への関与のことと、かかわった結果について、その反映の仕組みと公表の仕方についての質問であります。

まず、今回の地方創生の交付金は、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金でスタートし、27年度途中で上乗せ交付金タイプ1、タイプ2、そして加速化交付金と矢継ぎ早に交付金制度が設置され、都道府県、市町村、これらがみずからの考えで立案したものに交付金を交付するという形で進められています。言い方を変えれば、地方が試されている時代になったとも考えられます。

本村は、上乗せ交付金、加速化交付金、そして28年度の推進交付金、これらの全ての制度に応募

し、事業を実施してきております。

そこで、これらの交付金に求められておりますKPI（重要業績評価指数）、またPDCAメカニズムの導入については、議員が今御質問の中で説明をいただいたとおりでございます。

初めに、KPIについてお答えをする前に、この2つの事業の村としての目的を再認識していただくために説明をいたします。

東白川ファンを核とした村内製品の販売促進事業は、人口減少時代と、これまでも村外の応援団として活躍をいただいているそれぞれの村人会の会員数の減少と、高齢化が進んでいる状況の中、村の経済の活性化を目的とした村外での地元製品の販売先を拡充するためには、文字どおり東白川ファンをふやし、いわば第2の準村民組織なる集団の形成がこれらの課題の打開策となる。そして、東白川村公式ホームページに訃報メールや同窓会の幹事機能などを盛り込み、これと連動して、ECサイトでの地元製品の販路開拓を行うことを目的としております。

次に、山林資源販促ツール作成事業は、フォレストスタイル事業と東白川村の木材の販路開拓のための販促ツールとして、DVDやウェブ上での主張を見たり聞いたりすることを可能にし、建築業者、製材業者、森林組合等の営業に活用いただくことを目的として、専門家による映像資料を作成したものであります。

つまりこの2つの事業は、商品販売を行う小売店や製造業者、農産物を直接売りたいと思っておみえになる農家、2番目に建築受注を担う工務店や製材業者などとともに、民間事業所の業績向上を目指した施策でございます。

そこで、行政施策として、KPIは、ECモールの事業は参画店舗数とし、目標を5年間で15社といたしました。販促ツールのほうは、フォレストスタイルのウェブサイト訪問者の着工決意者数35人、ウェブサイト訪問者のうち登録者244人、民間事業所に成果物を提供することによる受注件数の増が3件、木材の取引高増が3%としました。この事業における中・長期的に検証すべきアウトカム指標は、経済センサスで見る事業者数、あるいは起業者数、経済センサスで見る小売店の小売の販売額になります。

今回の地方創生東白川村総合戦略では、地域産業に刺激を与え、にぎわいを創出することが真の目的であります。

減少傾向であった卸、小売の分野に光が差し、計画終了の平成31年度においてこの分野の総生産の減少に歯どめがかかることで、出身者との結びつき、そういったことや、商品や店舗の品質改善が行われて、初めて売り上げが伸びるものでございまして、こうした環境は数年かけて醸成されるものと思っております。

経済センサス等の結果を見ながら、中・長期的なアウトカム指標について、段階的に設定を検討してまいりたいと思っております。

販促ツールのほうは、このDVD等を有効に林業や建築業の分野に生かすための参照数を伸ばすことであると思っております。現在、工務店は大工や現場監督の人員をふやすところまで来ております。そうした環境が整ってくると目標値も上がってくると思っております。

映像を見られた長野県の工務店と東白川製材協同組合で木材の取引が始まり、このたび、本村の木材を使った第1号の住宅が完成したという知らせもございました。このように、私どもが当初の目的としました林業分野全体での効果も出始めております。

次に、実績について説明をします。

E Cモールの事業については、28年6月から10月までの取引件数が102件、売り上げ処理が43件あり、毎月増加傾向にあります。DVDは、フォレストスタイル版が300枚中241枚を配付しております。また、ユーチューブによる視聴が189回、ひのきマスター版が118枚中77枚を配付しており、ユーチューブでの視聴が152回となっております。

次に、もちろんこの業績の全てがこの事業に起因するものではありませんが、平成27年10月から平成28年3月までの実績としては、訪問者のうち着工決定者数を35人としたところ、実績数は25人、71.4%、訪問者のうち登録者数は、244人に対して実績は222人で、91%の達成率でございました。

次に、P D C Aサイクルの成果検証や外部専門家のかかわり方についての御質問でございますが、昨年度は5回の有識者会議を開催し、3月14日に開催した有識者会議で27年度の検証を行っていただきました。その検証結果はホームページで公表するとともに、国へ報告をしております。

各有識者会議での委員の意見や検証の結果については会議録を作成し、各担当者が情報共有するとともに、それぞれの事業執行の参考としております。特にE Cサイトでは、出店者数の確保、出店事業者のスキルアップ、これはパソコンの技術ですとか、放送の技術、搬送の技術等の向上ということでございます。また、新規商品の開発、既存商品のパッケージ等の開発が必要という意見を出されております。これらにつきましては、28年度の事業で取り組んでいるところであります。

なお、今年度の有識者会議は来年の3月に開催をし、また検証をしていただくという予定にしております。

以上で答弁といたします。

〔3番議員挙手〕

○議長（服田順次君）

3番 桂川一喜君。

○3番（桂川一喜君）

ただいまは質問にそのまま呼応した、ちゃんとした回答にはなっていますが、実はこの中で、特にK P Iの考え方に少し疑問を感じるころがありまして、現時点でのK P Iが達成されていれば、必ずゴールへ向かって進んでいるという、本来そういう指針が設定されていなきやいけなかったはずですが、例えば最初に東白川ファンを核とした村内製品の販売促進事業におきましては、最終目標をバーチャル的な村民をふやす。要は本来の住民票がある村民以外に、村とかかわりある村民の数をふやすことによって、村の生活、今後の生活を支えていくための最終目標がバーチャル的な村民の数をふやすとなっていました。その数字をまず上げられていないというのが、まずK G I、K G IというのはKey Goal Indicatorの略でして、先ほどはPerformance、途中の中間的な目標に対して、最終的にこの目標を達成することが村の地方創生に役立つという意味になりますが、それを

具体的に何人まで上げるんだという目標値を本来設定していなければならないであろうと思います。

その上で、何が問題かといいますと、それに基づいたK P I が設定されていないわけですが、指針であるK P I は登録事業者が15社であるということが設定されています。じゃあ、15社が目標として達成されたら、どうしてバーチャルな人数がふえるのかという十分な説明が今されなかったことと、そもそもなぜ途中経過が15社という目標になったかという部分についても、残念ながら今の説明では足りていない。

それから、先ほど村長が、既に結果につきましてはホームページ等で公表されていると言われましたが、実はホームページのトップページから探しに行くのは結構至難のわざでした。ただし、検索の上でひっかかりましたので、そこで検証結果の表を実はダウンロードさせていただきました。

そこにおきましては、実は15社に対して、21社の事業者が登録されております。すると、実はK P I の理屈からいいますと、21社が登録されているわけですから、そのまま引き続いて事業を継続されますと、必ず目的であるK G I、もしくは村長のおっしゃる目標値に達するであろうという見解が既に有識者の上でなされていなければならないわけです。でも、残念ながら、村の公表は拙いものでありまして、有識者がどのようにこれを検証しているのか、今後についてどう考えているのかということは一切わかりません。先ほど村長は、内部ではその情報は共有しているよとおっしゃられました。

僕が先ほど言った2つ目の質問の趣旨がそこにあるわけで、実は内部で適当に回される情報では、本来の透明性、もしくは有識者がどのようにかかわったということが住民に知らしめられて、初めて、今回、内閣府の言っておられる村全体が取り組んでいく、住民を全員巻き込んで取り組んでいくという意味においては、ちょっと透明性、公表性についてはまだ不確かなものがありますし、先ほど検証結果につきましては、皆さんにはお見せしませんが、宮古島市というところが検証結果をホームページで公表しているものがありました。これにつきましても、外部評価につきましては、単純にいい悪いというマル・バツ式ではなくて、ある程度A、B、C、Dという段階を踏まえて評価してあり、なおかつ、必ず評価の隣には、なぜその評価をしたのかという文章まできちんとつけ加えられた状態で公表されております。

それから、他の市町村におきましては議事録を本当に速やかに公表されているわけで、先ほど村長は議事録をつくりまではよかったです。ただし、その議事録は公表されるのではなく、内部資料として提供されている。これは、決して内閣府の言っている公表する透明性という部分には当たらないであろうと。ましてや、私ら、それを監査する立場である議員はそれを知る由もない状態のまままでこの事業が展開されていっているというのがまず今の現段階での現状だと思います。

まだ始まったばかりの事業だと言われましたので、現時点でそれを完全否定するものではなく、今後、内閣府のおっしゃっている意味合いを考えますと、K P I の見直し等も含めまして、本当に目標値に近づいていくためのK P I はこのままでいくのではなく、本当にゴールを目指すための正しい指針になるよう検討し直していただくとともに、内部資料となっております評価結果はもっと公表すべきものであるとともに、当然住民の代表であります議会に対しては必ず公表を大前提とし

ていただけないかという、この考えをどう考えるかということ質問として、再質問させていただきます。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

お答えをいたします。

まず、最終目標は見直しをしていく必要もあるし、現在設定されていないのではないかと御意見かなと思って聞いておりましたんですけど、先ほども言いましたように、着手した時点では、今、国が求めるKPIによって、具体的な数値目標でもって、KGI、最終目標を、まだ計算ができていかないということもあって、しておりません。先ほども答弁の中で答えたように、いろいろな事業が進んでいった中で、売上がどれだけの目標にいけるやろうというようなことで設定をする必要もあろうかなと思っております。今のところは参加事業者数というようなところではかったというところで御理解をいただきたいと思えます。

このままで終わるのではなく、有識者会議での検討も踏まえて、最終目標のところの数値目標の設定も考えていく予定でございます。

それから、もう一つ御指摘の透明性の問題、これは私どもも初めての事業で、国が求める公開の検証結果だけで3月は公開したわけですが、今、御意見をいただいたように、会議録の公開とか、決して隠しているわけでもありませんし、適当に処理しておるわけでもなく、真剣に取り組んでおりますので、今後は会議録の公開、それから会議自体の傍聴等もし必要であれば対応がしていけるのではないかと。これは、有識者の方々の御意見も聞きながらのことになるかと思えますけれども、今、議員御指摘のとおり、村民、あるいは全ての皆さん方にしっかりと公表ができる体制は整えてまいりますので、また御指導いただきたいと思えます。

〔3番議員挙手〕

○議長（服田順次君）

桂川一喜君。

○3番（桂川一喜君）

今、村長のお答えの中で1点気になる点、1点というか、特に気になる点がありましたが、最終目標も修正していかなければならないとおっしゃいました。実はこれ大きな間違いでありまして、KPI、中間地点というのは、最終目標を達成するのに修正を加えながら、正しくゴールへ導くために修正は必要です。ただし、事業というのは最終目標は修正しないのが大前提で、最初に設定した最終目標に対しては、絶対的にそれを守っていくところがポイントの重要なところであるわけです。今の話ですと、随時最終目標を変えていくというのは、事業展開においては最も避けて通るべき点で、最終目標が変更になった時点で事業そのものをゼロから見直す。これが本来の事業の見直し方で、今回の内閣府の設定しているものも、KPIについては、本当に慎重に見直しをいきなさいという意味。中間地点の場所というのがゴールから離れていくんだったら、ゴールへ近づくよう

に。それから、ゴールに達成する速度が遅いようだったら、どうしたらゴールにしっかり期限内にたどり着くかを見直すことが、先ほど横文字を使ってしまいましたのであれですけど、P D C A というように、随時検証、見直し、実行を繰り返していく必要があるということで指示されています。

ただし、先ほど村長がおっしゃったように、ついつい多分言葉的に使ってしまわれたんだと思いますが、最終目標となるところをいじっていくというようなことは決して行われるべきではないと思います。

そこで、今回のことは、実は公表した中にK P I的なものはしっかり公表されていますが、実は今回の事業を受けるに当たっては、目標値であるK G Iの設定は事業交付を受けるときには必要なかったと思いますが、でも、事業を組み立てる段階では必ず必要だとされていますので、一般村民、それから議会に対しても、目標となるインジケーター、数値をまずきちんと公表されて、それに対してどのような事業がどこまで達成しているのかというその意味を透明性として出してほしいということです。ただし、透明性も、内部で勝手に適当に判断しましたではなくて、有識者、要は第三者の人間、公平性のある人の意見を同時につけ加えることで、このようになっているということで見直していく。

これは、今回たまたま冒頭に申し上げましたように、たったこの2事業についての意見ではなくて、全ての村のやられる事業について目標値をしっかり設定して、揺るがない目標を目指すという意識で、途中途中で改善していくというのがうちの村の役場のやられる事業はちょっと弱いような気がします。結果としてこうだったというのは、何度も僕が言っているように報告がされますけれども、本当に目標に対してはどうだったかというところが弱いのは、どうしても数値目標として最終ゴールを設定する。設定した数値目標を公表していないというところがその甘えにつながるんじゃないかという趣旨で今回の質問を当初から組み立てさせていただきましたので、再度、村長に今後のこれらのK G I、K P Iに関する考え方をお答えいただきたいと思います。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

我々の全ての事業についてのK P I、K G Iの考え方についての御指摘をいただいたということでございますが、先ほど答弁しましたのは、最終目的の数値目標がまだ確実なものとして計算ができていかないという事業であったので、到達目標として緩むわけではなく、地域の経済の活性化と生産高、販売高の増加を目指すその姿勢は全然揺るぎない。これを変えるというようなことはないわけですが、それが、今、参加事業者が決まっていない時点で、じゃあどれだけ売り上げが伸びていくかという具体的な数字までは、やはり状況を見ながら目的をつけていきたいという思いで言ったことで、数値についての考え方でございます。

議員御指摘のとおり、事業については、全てが最終到達点、目標を設定して、これに対しての検証をしていくというのは、今後、事務事業を実施する上で求められる手法ということになってきて

おります。このことについての理解は進めております。

ただ、言いわけっぽく聞こえるかもしれませんが、決して適当にやっているわけでもなく、真摯に我々の持てる能力でもって、今、数値等の掌握、あるいは設定をしていきたいと思いますが、なかなか全ての事業についてやれないということでございますが、今年度の予算編成については、この前、予算編成方針で説明したように、しっかりと職員にも考えさせるというつもりで、議員ご指摘のとおり改善をしてみたいと思っております。

○議長（服田順次君）

以上で一般質問を終わります。

暫時休憩とし、CATVの退席をお願いしたいと思います。

午前11時43分 休憩

午前11時45分 再開

○議長（服田順次君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

◎承認第4号について（提案説明・質疑・討論・採決）

○議長（服田順次君）

日程第6、承認第4号 専決処分の承認を求めることについて、専第8号 平成28年度東白川村国民健康保険特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

村民課長 小池毅君。

○参事兼村民課長（小池 毅君）

承認第4号 専決処分の承認を求めることについて。次の件について、急施を要したので、地方自治法第179条第1項の規定により専決処分をした。右、地方自治法第179条第3項の規定により報告する。よって、これが承認を求める。平成28年12月16日提出、東白川村長。

記1. 平成28年度東白川村国民健康保険特別会計補正予算（第2号）（別紙）。

専第8号 平成28年度東白川村国民健康保険特別会計補正予算（第2号）。平成28年度東白川村国民健康保険特別会計補正予算（第2号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）第1条 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第1表 歳入歳出予算補正」による。

以上、地方自治法第179条第1項の規定により専決処分をする。平成28年11月1日、東白川村長。

2ページの第1表 歳入歳出予算補正から6ページの補正予算事項別明細書の朗読は省略させていただきます。7ページの歳入から説明をさせていただきます。

この専決の趣旨でございますけれども、一般被保険者の高額療養費の伸びが予想以上に大きく、10月末現在の予算残額が11月の給付予定額を下回る見込みとなりましたため、額が確定しておりま

す後期高齢者支援金及び介護納付金のほうから高額療養費に流用組み替えを行うというものでございます。

それでは、2. 歳入。

3款1項1目療養給付費等負担金、補正額が88万円の減。療養給付費等の負担金確定による減額でございます。内訳は、療養給付費の負担金が168万円増、介護納付金が64万円の減、後期高齢者支援金が192万円の減となっております。

2項1目の財政調整交付金、補正額が25万円の減。財政調整交付金の確定による減額でございます。

6款1項2目県財政調整交付金、補正額が25万円の減額。これも財政調整交付金の確定による減額でございます。

7款1項1目の高額医療費共同事業交付金、補正額が138万円。高額療養費の給付費の増による増額補正でございます。

合計の歳入額はゼロでございます。

続きまして、9ページの歳出でございます。

2款2項1目一般被保険者高額療養費、補正額が800万円の増額。これは、一般高額療養費が不足するため増額補正を行うものでございます。

3款1項1目後期高齢者支援金、補正額が600万円の減額。支援金の額確定による減額と、それから一般被保険者高額療養費への組み替え流用の補正でございます。

6款1項1目の介護納付金、補正額が200万円の減額。これも納付金の額確定による減額と、一般被保険者の高額療養費への組み替えに充てるというものでございます。以上でございます。

○議長（服田順次君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔挙手する者なし〕

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

〔挙手する者なし〕

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから専第8号 平成28年度東白川村国民健康保険特別会計補正予算（第2号）を採決します。お諮りします。本件は、原案のとおり承認することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。したがって、専第8号 平成28年度東白川村国民健康保険特別会計補正予算（第2号）は、原案のとおり承認されました。

それでは、ここで暫時休憩としますので、よろしく願いをいたします。再開は午後1時、チャ

イムの後から行いますので、お願いします。

午前11時51分 休憩

午後 1 時00分 再開

○議長（服田順次君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

◎議案第69号及び議案第70号について（提案説明・質疑・討論・採決）

○議長（服田順次君）

日程第7、議案第69号 可茂広域行政事務組合理約の一部を変更する規約に関する協議についてから日程第8、議案第70号 可茂広域公平委員会共同設置規約の制定に関する協議についてまでの2件を関連がありますので、一括して議題とします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

参事兼総務課長 安江良浩君。

○参事兼総務課長（安江良浩君）

議案第69号 可茂広域行政事務組合理約の一部を変更する規約に関する協議について。地方自治法第286条第1項の規定により、可茂広域行政事務組合理約の一部を別紙のとおり変更することについて、同法第290条の規定により議会の議決を求める。平成28年12月16日提出、東白川村長。

1枚めくっていただきたいと思います。

可茂広域行政事務組合理約の一部を変更する規約。可茂広域行政事務組合理約の一部を次のように変更する。第12条を第13条とし、同条の前に次の1条を加える。

新旧対照表をつくっておりますので、新旧対照表の1枚をめくっていただきまして、1ページをもらっていただきたいと思います。

右が改正前、左が改正後でございます。

その他の第12条を第13条に繰り下げまして、第11条の後に、第12条として、事務の承継、組合の解散に伴う事務の承継にあつては、関係市町村及び関係一部事務組合がその議会の議決を経て行う協議をもって定める。これを加えさせていただきます。

本文に戻っていただきまして、附則、この規約は、岐阜県知事の許可のあった日から施行する。

この行政事務組合の解散に至った経緯について説明させていただきます。

可茂広域行政事務組合は、平成6年に可茂地域行政圏と中濃郡上圏域で中濃地方拠点都市地域の指定を受け、平成7年4月に可茂視聴覚教育事務組合及び可茂地域広域観光推進協議会を取り込み、可茂広域行政事務組合が設立されました。組合設立の目的は、中濃地方拠点都市地域の発展と事業推進、可茂地域においては、可茂衛生施設利用組合、可茂消防事務組合、可茂公設地方市場組合を統合し、地域の一体性の確保と広域の事業展開及び行政組織のさらなる効率化を目指すものでした。

衛生、消防、市場の各組合の一本化に向けて検証を重ねてきましたが、それぞれの組合が独立性

を持って長年運営されており、管理体制や職員の身分についても大きな格差があることにあわせて、組合の業務が専門性を持っていることから、一本化に向けた調整も困難であると判断されました。

既に可茂視聴覚教育事務組合と可茂地域広域観光推進協議会の事務は廃止されており、現在は可茂地域市町村圏の振興、広域における職員研修、公平委員会事務の共同処理にとどまっています。

以上のことから、可茂広域行政組合はその存在意義と役割を終えて、今後は状況に合わせて連携の枠組みで実施することになりました。

平成29年3月31日をもって解散することになりましたが、解散に伴う事務の承継に当たっては、2市8町村及び5つの事務組合の協議を持って定めることとなっておりますが、その協議に当たっては、地方自治法第290条により関係市町村の議会の議決を経なければならないとされておりまして、今回上程させていただくものです。

続きまして、議案第70号 可茂広域公平委員会共同設置規約の制定に関する協議について。可茂広域公平委員会を共同設置することについて、地方自治法第252条の7第3項で準用する同法第252条の2の2第3項本文の規定により、議会の議決を求める。平成28年12月16日提出、東白川村長。

次をめぐっていただきまして、可茂広域公平委員会共同設置規約の趣旨について説明させていただきます。

公平委員会は、職員の勤務条件に関する措置の要求及び職員に対する不利益処分を審査し、並びにこれについて必要な措置を講ずることを職務とする行政委員会で、地方公務員法によってその設置が義務づけられており、可茂地域では委員会を共同で設置し、その事務を可茂広域行政事務組合に置いています。当組合が平成29年3月をもって解散することから、現在構成している市町村及び一部事務組合で新たに共同で公平委員会を設置するため、規約を制定するものでございます。

その協議に当たっては、地方自治法により関係市町村の議会の議決を経なければならないとされており、今回上程させていただくものです。

(設置) 第1条、地方公務員法第7条第4項の規定に基づき、次に掲げる市町村及び一部事務組合(以下「関係団体」という)は共同して公平委員会を設置する。

この囲みの部分のところでございますが、美濃加茂市を初め8市町村、可茂衛生施設利用組合以下5事務組合で構成をされております。

(名称) 第2条、前条の公平委員会は、可茂広域公平委員会(以下「公平委員会」という)という。

(執務場所) 第3条、公平委員会の執務場所は、可児市役所内とする。

(委員) 第4条、公平委員会の委員は、可児市長が可児市議会の同意を得て選任する。

2. 公平委員会の委員の報酬及び費用弁償の額、並びにその支給方法、その他身分取り扱いについては、可児市条例の定めるところによる。

(事務職員) 第5条、公平委員会の事務職員は、可児市の職員をもって充てる。

2. 事務職員の身分取り扱いについては、可児市職員の身分取り扱いの例による。

(通常経費) 第6条、公平委員会の設置及び運営に関する経費は、均等割及び職員数割により算

出して、関係団体が負担する。

(特別経費) 第7条、特定の関係団体に対する不服申し立て等により、公平委員会に特定の事務を管理し執行させる場合は、前条に規定する負担金とは別に、これに要する経費を当該関係団体が負担する。

(負担金の歳入と費用の支出) 第8条、第6条及び前条の負担金は可児市の歳入予算に計上し、経費はその歳出予算に計上して支出するものとする。

(決算報告) 第9条、可児市長は、公平委員会に関する決算を可児市議会の認定に付したときは、その結果を関係団体の長に報告しなければならない。

(補則) 第10条、この規約に定めるものほか、公平委員会に関し必要な事項は、関係団体の長が協議して定める。

附則1. この規約は、平成29年4月1日から施行する。

2. この規約の施行後、最初に選任される公平委員会の委員の選任のための手続、その他この規約を実施するために必要な準備行為は、この規約の施行の日前においても行うことができる。

以上でございます。よろしく願いいたします。

○議長(服田順次君)

これから質疑を行います。

[挙手する者あり]

2番 今井美道君。

○2番(今井美道君)

今、御説明をいただいて、僕の解釈が間違っていなければですけど、今ある事務組合、可茂消防のことを中心に聞くわけですが、この組合がそれぞれある今のものを全て解散して、一つの組合にするという意味でいいのかということ。そういう捉え方なのか、この中の公平委員会というものが今までもあって、不平不満の部分を取り扱う部門だけまとめるのかどうかということ、多分先ほどの説明だと、こういった組合を全部まとめて可児市の市役所の中に入れて、そこに職員を置いてということなのか、ちょっとその辺をもう一度お伺いしたいのと、質問の回数が限られていますので、ここに均等割及びこれから負担する金額が出てくるということですので、この辺のお金の試算はどういうふうになっているのかということ、ちょっと2点をお願いしたいと思います。

○議長(服田順次君)

参事 安江良浩君。

○参事兼総務課長(安江良浩君)

この可茂消防事務組合は、事務についての一本化というのを模索しておった。それを目的にした可茂広域行政事務組合でございましたが、先ほど説明しましたように、それぞれの組合が独立性を持っておりますので、可茂消防事務組合は可茂消防事務組合として、これからも変わりなく行っていくということで、一本化に向けた広域行政事務組合は解散をするということですが、5つの一部事務組合はそれぞれで今も変わりなくやっています。

ただ、公平委員会につきましては、その窓口となっている事務組合が解散します。地方公務員法によって、これは設置しなければいけませんので、どこに事務局を置くかということで、今回、可児市役所のほうへ事務局を置きます。

経費につきましては、例えば不服申し立てがあって、その審査、また訴訟とか調停等に入る場合の弁護士費用というのはそれぞれその事案があった関係の市町村がまた別途負担されますけど、均等割等につきましては、ちょっと金額は今資料を持ってございませんけど、一般的な負担金で、会議に必要な経費の程度になるかなと思っております。

○議長（服田順次君）

ほかにありませんか。

[挙手する者なし]

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

[挙手する者なし]

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第69号 可茂広域行政事務組合同規約の一部を変更する規約に関する協議についてから議案第70号 可茂広域公平委員会共同設置規約の制定に関する協議についてまでの2件を一括して採決します。

お諮りします。本件は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

異議なしと認めます。したがって、議案第69号 可茂広域行政事務組合同規約の一部を変更する規約に関する協議についてから議案第70号 可茂広域公平委員会共同設置規約の制定に関する協議についてまでの2件は、原案のとおり可決されました。

◎議案第71号から議案第73号までについて（提案説明・質疑・討論・採決）

○議長（服田順次君）

日程第9、議案第71号 東白川村議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例についてから日程第11、議案第73号 東白川村職員の給与に関する条例の一部を改正する条例についてまでの3件を関連がありますので、一括して議題とします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

参事兼総務課長 安江良浩君。

○参事兼総務課長（安江良浩君）

議案第71号 東白川村議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について。東白川村議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例を別紙のとおり提出する。平成28年12月16日提出、東白川村長。

1枚めくっていただきまして、東白川村議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例。東白川村議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部改正。

第1条、東白川村議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部の次のように改正する。
また、新旧対照表を用意させていただいております。

2ページでございますが、期末手当の第5条第2項中ですが、12月に支給する場合においては「100分の182.5」を「100分の192.5」にするということで、職員と同様に0.1月引き上げさせていただきまして、平成28年の支給合計額は3.475月として、0.1月の引き上げとなります。

また、本文に戻っていただきまして、東白川村議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部改正。

第2条、東白川村議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部を次のように改正する。

新旧対照表の02-1ページでございますが、期末手当の第5条でございます。先ほど1条で乗率を変えておりましたが、6月に支給する場合においては「100分の155」を「100分の160」に、それから12月に支給する場合には「100分の192.5」を「100分の187.5」に改めるものでございます。

これにつきましては、平成29年の支給に伴うものでございます。今までの条例改正ですと、次年度以降については3月の定例会で条例改正をさせていただきましたけど、12月の定例会において、28年度に限るものについての改正と、29年度以降の改正について、あわせて条例の改正をお願いするものでございます。

附則、（施行期日）1. この条例は公布の日から施行する。ただし、第2条の規定は、平成29年4月1日から施行する。

2. 第1条の規定による改正後の東白川村議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の規定は、平成28年12月1日から適用するというので、28年のみの条例改正と、29年の期末手当の改正を同時にやらせていただくものでございます。

続きまして、議案第72号 東白川村常勤の特別職職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について。東白川村常勤の特別職職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を別紙のとおり提出する。平成28年12月16日提出、東白川村長。

1枚めくっていただきたいと思っております。

東白川村常勤の特別職職員の給与に関する条例の一部を改正する条例。東白川村常勤の特別職職員の平成28年度における期末手当の割合の特例に関する条例の一部を改正。

第1条、東白川村常勤の特別職職員の平成28年度における期末手当の割合の特例に関する条例の一部を次のように改正する。

新旧対照表の4ページをごらんいただきたいと思っております。

第5条の2項中でございますが、12月に支給する場合においては「100分の206.625」を「100分の216.625」を乗じて得た額とするということでございます。これは、本則から5%カットした特例の部分でございます。

また、本文のほうへ戻っていただきまして、中段のところの第2条でございます。東白川村常勤

の特別職職員の給与に関する条例の一部を改正。

第2条、東白川村常勤の特別職職員の給与に関する条例の一部を次のように改正する。

新旧対照表でいいますと、5ページでございます。

期末手当第5条の2項中でございますが、6月に支給する場合には「100分の190」を「100分の202.5」、12月に支給する場合には「100分の205」を「100分の217.5」を乗じて得た額と改めます。

これにつきましては、平成28年4月1日から適用します本則の部分の改正、平成28年4月1日にさかのぼった本則の改正でございます。

続きまして、第3条でございます。

本文のほうへ戻っていただきまして、東白川村常勤の特別職職員の給与に関する条例の一部を改正する。

第3条、東白川村常勤の特別職職員の給与に関する条例の一部を次のように改正する。

第5条の第2項中でございますが、「100分の202.5」を「100分の207.5」、12月の「100分の217.5」を「100分の222.5」に改める。

これは、29年4月1日から適用になります本則の改正ということで、また本文に戻っていただきまして、附則で、（施行期日）1. この条例は公布の日から施行する。ただし、第3条の規定は、平成29年4月1日から施行する。

（適用）2. 第1条の規定による改正後の東白川村常勤の特別職職員の平成28年度における期末手当の割合に関する条例の規定は平成28年12月1日から適用し、第2条の規定による改正後の東白川村常勤の特別職職員の給与に関する条例の規定は平成28年4月1日から適用するという事で、まず28年の本則を改正しまして、それから5%カットの特例分を改正します。それから、今度は29年4月からの適用の本則の改正ということで、ちょっと複雑な条例改正でございますが、まず27年の本則の部分を28年の本則にまず改正しまして、その本則の乗率から5%カットした特例分の改正をします。それから、今度は29年4月から適用する本則の部分の改正というような順番で、附則のところまでこういったことで改正させていただきました。

続きまして、議案第73号 東白川村職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について。東白川村職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を別紙のとおり提出する。平成28年12月16日提出、東白川村長。

東白川村職員の給与に関する条例の一部を改正する条例。東白川村職員の給与に関する条例の一部改正。

第1条、東白川村職員の給与に関する条例の一部を次のように改正する。

また、新旧対照表の8ページでございます。

初任給調整手当、第13条の3でございますが、ここの改正で「掲げる額」が「定める額」になっております。

また、採用の日のところの括弧のところですが、「第1号及び第2号に掲げる職に」を削除して

おります。

次のページでございますが、13条の3の1号でございますが、初任給調整手当の月額を改正でございます。「41万3,300円」から「41万3,800円」でございます。これは、医療職の1年未満の初任給調整手当でございます。

それから、2号のところでございますが、医師以外の薬剤師、医療検査技師等でございますが、採用による欠員の補充が困難であると認められる場合は、月額「5万500円」から「5万600円」に改正をするものでございます。

続きまして、23条の7の勤勉手当でございますが、10ページの中段のところでございますが、「掲げる額」を「定める額」に改正しまして、上の改正のところですが、「6月に支給する場合には100分の80、12月に支給する場合には100分の90」ということで、人事院勧告に伴い、引き上げをさせていただきました。

また、2号のところは、再任用の職員についてでございますが、そこについても引き上げをさせていただくものでございます。

それから、11ページの附則の23号でございますが、ここは55歳以上の給与を抑制されている職員が対象者でございますが、勤勉手当の減額がございまして、これにつきましても率に変更になりましたので、この附則で改正をするものでございます。

続きまして、別表のところですが、13ページから行政職から医療職までの別表がございまして、右の表が改正前、左が改正後でございます。若年層につきましては約1,500円程度、それから係長、課長は500円から1,000円程度のそれぞれのアップとなっております。

表のほうは割愛させていただきまして、新旧対照表の44ページでございますが、本文は表の後に第2条がございます。東白川村職員の給与に関する条例の一部を改正する条例。

第2条、東白川村職員の給与に関する条例の一部を次のように改正するというので、新旧対照表の44ページですが、第14条の扶養手当の2号のところでございます。「婚いん」が「婚姻」と漢字に変わっておりますし、2号のところ「3月31日までの間にある子及び孫」の「及び孫」を削りまして、3号に「満22歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある孫」が加わりまして、以降の号が1つずつ繰り下がっております。

また、3項につきましては、扶養手当の月額の変更がございまして。配偶者、父母等につきましては「1万3,000円」が「6,500円」、子供につきましては「6,500円」から「1万円」に改正となっております。

それから、第15条のところですが、扶養親族としての要件に至ったとき、または要件を欠くことになった場合は村長への届けをしなければならない。その規定でございますが、ここにつきましては、前の条項の変更等に伴いまして、ここは整理をさせていただくものでございます。

続きまして、46ページと同条第2項のところでございます。扶養手当の支給開始日を定めた条文でございますが、新規採用職員については、扶養親族がある場合は職員になった日、新たに扶養親族の事実が発生した場合は、生じた日の翌月に支給するというものでございます。ここにつきまし

でも文言の変更がございまして、ここもそれぞれの条文の整理をさせていただいておるところでございます。

続きまして、47ページのところの扶養手当の支給額の改定についての規定でございますが、扶養親族が新たにふえた場合とか、扶養親族で欠く者が生じた場合、また子供で特定期間に該当となった、15歳以上になった者については、それぞれ前項のただし書きというのが47ページの中段にあります。これを準用して改正するものでございます。

それから、49ページの勤勉手当、第23条の7でございます。50ページの中段のところでございますが、1項のところ、「6月に支給する場合には100分の80、12月に支給する場合には100分の90」というものを「100分の85」に改めるものでございます。

それから、2項のところでは再任用の職員の率でございますが、「100分の37.5」を「100分の40」に改めるものでございます。

それから、51ページのところでございますが、附則の23でございます。これは、先ほど説明しました給与の抑制のかかった55歳を対象にした職員の減額対象額にどれだけ減額するものかという乗率が変わったものでございます。

52ページ以降は附則でございます。これにつきましては、第1条のところは扶養手当のことでございますが、29年の4月1日から施行する。それから、2項のところは給与の改正でございます。これにつきましては、28年の4月1日から適用する。それから、給与の内払い、差額の部分ですが、ここにつきましては、27年度の改正条例も含めてということでございます。

それから、53ページの第3条以降につきましては、平成29年の4月から平成30年3月に限った改正でございまして、主に扶養親族の子供、父母等の改正でございます。配偶者の手当は1万円、子供は8,000円から1万円、父母等は6,500円というような改正でございまして、30年以降はまた金額が変わりますので、29年度に限った改正ということで、附則で適用をすることになっております。

それで、第1条のところにつきましては平成28年に限ってでございますし、第2条につきましては平成29年4月1日から施行の部分でございます。以上でございます。

○議長（服田順次君）

これから質疑を行います。

[挙手する者あり]

2番 今井美道君。

○2番（今井美道君）

今、議員の分と特別職の方、職員の方と順番にやっておるわけなんです。特別職の方等は一度下げてとかという話があったんで、我々議員の部分でちょっと確認、もう一度伺いたいと思うんですが、第1条は、2項中で5%上がると。第2条のほうで、とりあえず対照表を見たほうがいいですかね。②の1、6月のところは100分の155から160に変えると。12月の部分においては192.5を187.5に5%下げるという改正が本文のほうにも書いてあると思うんですが、これで間違いない

わけですかね。6月をふやして、12月で減らすよということなんですかね。

○議長（服田順次君）

参事。

○参事兼総務課長（安江良浩君）

第1条で0.1月上げまして、6月支給分と12月支給分合わせて3.475になっています。2条につきましては、6月支給は100分の160、12月支給は100分の187.5に改めて、合わせて3.475月として、平成28年度と同じ率になっております。その後の人事院勧告等が出た場合にはまた改正をさせていただくこととなりますが、29年度の適用については、28年度と同様に3.475月でさせていただくということでございます。

[挙手する者あり]

○議長（服田順次君）

2番 今井美道君。

○2番（今井美道君）

プラマイゼロだよという確認ですけど、そういうことですね。

○議長（服田順次君）

参事。

○参事兼総務課長（安江良浩君）

言われたとおりでございます。

○議長（服田順次君）

ほかに質疑はありませんか。

[挙手する者なし]

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

[挙手する者なし]

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第71号 東白川村議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例についてから議案第73号 東白川村職員の給与に関する条例の一部を改正する条例についてまでの3件を一括して採決します。

お諮りします。本件は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

異議なしと認めます。したがって、議案第71号 東白川村議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例についてから議案第73号 東白川村職員の給与に関する条例の一部を改正する条例についてまでの3件は、原案のとおり可決されました。

◎議案第74号について（提案説明・質疑・討論・採決）

○議長（服田順次君）

日程第12、議案第74号 東白川村保育の実施に関する条例を廃止する条例についてを議題とします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

教育課長 安江任弘君。

○教育課長（安江任弘君）

議案第74号 東白川村保育の実施に関する条例を廃止する条例について。東白川村保育の実施に関する条例を廃止する条例を別紙のとおり提出する。平成28年12月16日提出、東白川村長。

次のページに行っていただきまして、東白川村保育の実施に関する条例を廃止する条例。東白川村保育の実施に関する条例は廃止する。

附則、（施行期日）この条例は公布の日から施行し、平成28年12月1日から適用する。

内容を説明しますと、平成24年に制定された子ども・子育て支援法に基づき、昨年、平成27年1月29日に施行しました東白川村保育の必要性の認定に関する規則により、保育の実施に係る基準が新たに設けられました。それにより、この古い基準である本条例は必要がなくなりましたので、今回、条例及び凡例、規則もあわせて廃止させていただくものになります。以上です。

○議長（服田順次君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔挙手する者なし〕

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

〔挙手する者なし〕

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第74号 東白川村保育の実施に関する条例を廃止する条例についてを採決します。お諮りします。本件は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。したがって、議案第74号 東白川村保育の実施に関する条例を廃止する条例については、原案のとおり可決されました。

◎議案第75号について（提案説明・質疑・討論・採決）

○議長（服田順次君）

日程第13、議案第75号 東白川村農業委員会の委員等の定数を定める条例についてを議題とします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

産業振興課長 今井稔君。

○産業振興課長（今井 稔君）

議案第75号 東白川村農業委員会の委員等の定数を定める条例について。東白川村農業委員会の委員等の定数を定める条例を別紙のとおり提出する。平成28年12月16日提出、東白川村長。

東白川村農業委員会の委員等の定数を定める条例。

（目的）第1条、この条例は、農業委員会等に関する法律第8条第2項及び第18条第2項の規定に基づき、東白川村農業委員会の委員（以下「農業委員」といいます）及び農地利用最適化推進委員（以下「推進委員」といいます）の定数を定めることを目的とする。

（委員の定数）第2条、委員の定数は、次のとおりとする。(1)農業委員14人、(2)農地利用最適化推進委員3人。

（委任）第3条、この条例の施行に関し、必要な事項は規則で定める。

附則、（施行期日）1. この条例は平成29年4月1日から施行する。

（東白川村農業委員会の選挙による委員の定数に関する条例の廃止）2. 東白川村農業委員会の選挙による委員の定数に関する条例は廃止する。

（東白川村非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正）3. 東白川村非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を次のように改正する。

（報酬の額）第2条、別表第1中、「20 農業委員会委員年額7万7,000円」を「20 農業委員会委員及び農地利用最適化推進委員年額、(1)基本額8万4,000円、(2)成績額、担い手への集積に一定以上の成果があった場合に村長が別に定める額」に改める。

（施行期日等）この条例による改正後の農業委員会及び農地利用最適化推進委員の報酬額の規定は、平成29年7月20日から就任する委員に適用する。

この条例につきまして、先般、全協で御説明を申し上げましたとおり、来年の7月20日から農業委員会が新制度へ移行するというので、今回の条例の改正でございます。以上でございます。

○議長（服田順次君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

[挙手する者あり]

2番 今井美道君。

○2番（今井美道君）

先日の全協でお伺いしたように、今回の議会で条例定数の議決をということだったんですが、この報酬の額という項目が第2条にあるんですが、この中の成績額、担い手への集積に一定の成果があった場合という、ここの部分、ちょっと補足をいただければと思います。

○議長（服田順次君）

産業振興課長。

○産業振興課長（今井 稔君）

今、農業委員さんの場合は、耕作放棄地とか、いろんなそういう調査等をしていただいておりますけれども、そういった活動に対してのものでございます。

〔挙手する者あり〕

○議長（服田順次君）

2番 今井美道君。

○2番（今井美道君）

余りまだ具体的なシステムというか、支払い条件とかはつくっていないという解釈でよろしいでしょうか。

○議長（服田順次君）

産業振興課長。

○産業振興課長（今井 稔君）

まだこれからでございます。

○議長（服田順次君）

ほかに質疑はありませんか。

〔挙手する者なし〕

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

〔挙手する者なし〕

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第75号 東白川村農業委員会の委員等の定数を定める条例についてを採決します。お諮りします。本件は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。したがって、議案第75号 東白川村農業委員会の委員等の定数を定める条例については、原案のとおり可決されました。

◎議案第76号から議案第80号までについて（提案説明・質疑・討論・採決）

○議長（服田順次君）

日程第14、議案第76号 平成28年度東白川村一般会計補正予算（第6号）から日程第18、議案第80号 平成28年度東白川村国保診療所特別会計補正予算（第3号）までの5件は補正関連のため一括して議題とします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

参事兼総務課長 安江良浩君。

○参事兼総務課長（安江良浩君）

議案第76号 平成28年度東白川村一般会計補正予算（第6号）。平成28年度東白川村一般会計補正予算（第6号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）第1条 既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1億2,805万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ29億245万7,000円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第1表 歳入歳出予算補正」による。

（地方債の補正）第2条 地方自治法第230条第1項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第2表 地方債補正」による。平成28年12月16日提出、東白川村長。

次の2ページから5ページの第1表のほうは省略させていただきます、6ページの第2表 地方債の補正について読み上げさせていただきます。

追加としまして、起債の目的、一般補助施設整備事業、限度額2,220万円、起債の方法、普通貸借、利率、4%以内（ただし、利率見直し方式で借り入れるものについて、利率の見直しを行った後においては、当該見直し後の利率）、償還の方法、政府資金については、その融資条件に銀行その他の場合にはその債権者と協定するものによる。ただし、村財政の都合により、据置期間及び償還期限を短縮し、または繰り上げ償還もしくは低利に借りかえすることができる。

この起債につきましては、地方創生事業の担い手住宅等の整備事業に充当するものでございます。それでは、次の8ページからの事項別明細書を省略させていただきます、10ページの歳入から説明をいたします。

9款1項1目地方交付税、補正額5,926万6,000円。普通交付税でございます。

11款1項11目災害復旧費分担金、補正額8万円。これは神付地内の農地の修繕の受益者負担金の分でございます。

2項3目民生費負担金、補正額14万1,000円の減。養護老人ホームの入所者負担金で、入所者2名の減に伴う減額でございます。

13款1項3目民生費国庫負担金、補正額6万9,000円。国民健康保険基盤安定制度負担金でございます。

続きまして、2項2目総務費国庫補助金、補正額2,458万2,000円。マイナンバー制度の関係の補助金が21万6,000円の追加、それから地方創生推進交付金としまして212万5,000円、地方創生拠点整備交付金としまして2,224万1,000円。この2つの交付金につきましては担い手住宅整備等に充当するもので、新たに追加するものでございます。

3目の民生費国庫補助金、補正額775万8,000円。マイナンバー関係の補助金が28万8,000円、低所得高齢者支援臨時福祉給付金事業費補助金189万円の減、事業費確定に伴う減でございます。その次、年金生活者等支援臨時福祉給付金事業費補助金が21万円の追加でございます。その下が臨時福祉給付金事業費補助金、経済対策分として、今年度から始まった新規で計上させていただくもので、837万円。1人当たり1万5,000円で、対象者が558人でございます。続きまして、臨時福祉給

付金事業の新規分の事務費補助金でございますが、78万円でございます。

4目の衛生費国庫補助金75万1,000円の追加でございます。これは浄化槽の設置補助金で、5人槽の浄化槽の1基追加でございます。

続きまして、14款1項3目民生費県負担金、補正額3万7,000円。国保の基盤安定制度負担金で、負担金確定に伴う増額でございます。

続きまして12ページ、2項4目の衛生費県補助金10万2,000円の追加。浄化槽の設置補助金で、先ほど説明させていただきました5人槽の1基の追加でございます。

8目土木費県補助金、補正額2,000円。土地利用規制等の対策費交付金ということで、交付金の確定に伴う増額でございます。

9目の消防費県補助金、補正額1万円の減。清流の国ぎふ推進補助金事業費確定に伴う減で、ドローンの整備をさせていただいた事業の確定でございます。

続きまして、15款1項1目財産貸付収入、補正額2,000円。これは大明神の集落営農組合の倉庫用地としての土地の貸付料でございます。

16款1項1目一般寄附金、補正額2万8,000円。

続きまして、2目の指定寄附金903万3,000円。ふるさと思いやり基金指定寄附金が835万7,000円。8月から10月分でございます。社会福祉施設整備指定寄附金で、親田の大坪様、以下4名の方から56万3,000円の寄附がございました。続きまして、13ページの観光振興費指定寄附金といたしまして、飛騨川漁業協同組合東白川支部様から1万3,000円、続きまして、小学校指定寄附金で、日向の牧野様から10万円の寄附をいただいております。

続きまして、19款4項4目の雑入、補正額429万1,000円。市町村振興協会交付金として、サマージャンボの売り上げ収入でございますが、506万2,000円。みのかも定住自立圏負担金ということで、美濃加茂市からの負担金を予定しておりましたけど、事業の取りやめによる減額でございます。それから、日照木等の用材林代で1,000円。透析通院支援中津川市負担金ということで12万円の減。これにつきましても事業の取りやめで減額をしております。

続きまして、20款1項2目の総務債、補正額が2,220万円。地方創生事業の振興整備交付金事業に充当させていただくものでございます。

続きまして、14ページからは歳出の説明でございます。

1款1項1目の議会費、補正額58万7,000円。議会運営費としまして、議員の期末手当の差額分で15万9,000円。議会事務局費は給与改定による差額分と、職員手当で超勤手当を35万円ほど追加させていただいております。

続きまして、2款1項1目の一般管理費、補正額1,648万7,000円。給与一般管理費で給与についての改正に伴う増額。それから職員手当につきましても、超勤手当を来年の3月までの不足が生じることになりましたので、200万円追加させていただいております。また、共済組合の負担金が125万7,000円の追加でございます。共済費、合わせて380万円の追加でございます。それから、15ページの負担金、補助及び交付金のところで135万円。これは白川・東白川地域の公共交通活性化協議

会の負担金として、白川町へ負担受けするもので、新規で上げさせていただいております。それから、積立金835万7,000円はふるさと思いやり基金の8月から10月分でございます。その下の職員厚生費、ストレスチェックの委託料ということで、今年度からストレスチェックを実施しますが、臨時職員も含めて全員の職員を対象にするということで若干予算が不足しましたので、追加させていただきます。

続きまして、5目の財産管理費ですが、269万7,000円の追加。物件管理費で77万6,000円の追加です。修繕料としまして、役場前の浄化槽の放流ポンプの修繕等でございます。また、工事請負費では、火災報知機の設置、それから屋内の消火栓用ホースの交換。これは別館でございますが、消防の立ち会いがございまして、そこで修繕の命令等を受けての工事でございます。続きまして16ページ、行政情報化推進費で、職員用のデスクトップ型のパソコンを6台買う予定でございます。それから、セキュリティ強化対策事業ということで、ネットワークの設定変更の委託料で53万円。

6目企画費では15万3,000円の追加でございます。ここにつきましては、29年5月に開催されますかも1グランプリの準備の諸費でございます。

続きまして、10目地域情報化事業費76万8,000円の追加でございます。CATV機器管理運営事業で76万8,000円ということで、主なものにつきましては工事請負費でございますが、電柱移転工事、日向地内の太陽光パネルの建設に伴うルート変更、それから五加のサロンの建設に伴う支障移転等でございます。

続きまして、12目の地方創生事業費、補正額5,761万2,000円。再生可能エネルギー活用事業の備品購入で150万円の減、負担金、補助及び交付金が150万円の追加でございます。新規で上げさせていただいておりますが、これはまき割り機、運搬用トラックの購入でございますが、備品から補助金に予算の組み替えをするものでございます。続きまして、17ページでございますが、地方創生のフォレストスタイル事業でございます。賃金で臨時職員の賃金に不足が生じてきましたので、215万円の追加。それから、フォレストスタイルの事務委託料を460万円見ておりましたけど、これを減額するものでございます。続きまして、つちのこメンバーズカードでございますが、ポイント還元のつちのこ商品券でございますが、これにつきましても不足を生じてきましたので100万円の追加でございます。それから、林業・木材、建築業担い手育成事業で5,906万2,000円でございます。委託料につきましては、敷地造成、住宅の建築、それから仕事百貨情報の掲載のそれぞれの委託料でございます。工事請負費は住宅の敷地造成、それから住宅の建築工事でございます。

続きまして、2項1目の税務総務費58万2,000円。給与改定による職員の人件費の増額。それから18ページのところで、需用費で10万6,000円、納税相談に必要な消耗品を買う予定でございます。

続きまして、2目の賦課徴収費3万3,000円。これは住民税のスキヤナーシステムの用紙変更に伴うシステム変更の委託料でございます。

続きまして、3項1目戸籍住民基本台帳費、補正額14万1,000円。職員手当につきましては、給与改定等につき増額。

19ページの5目岐阜県知事選挙費、補正額7万7,000円。入場券の様式がはがきから封書に変更

になりました。その印刷製本費の不足分と、あと選挙名簿の電算処理委託料の追加でございます。

続きまして、3款1項1目の住民福祉費、補正額1,843万8,000円。住民福祉費一般につきましては、給与改定分の人件費、それから共済費の追加でございます。その下が国民健康保険特別会計繰出金、法定内が82万2,000円、法定外1,755万2,000円ということで、合わせて1,837万4,000円の追加でございます。

続きまして、3目保健福祉費、補正額735万1,000円。ここにつきましても人件費の追加等でございます。20ページのところで、積立金としまして、社会福祉施設整備基金積立金46万4,000円、3名の方から寄附をいただきましたものを積み立てるものでございます。続きまして、障害者地域生活支援事業64万6,000円の減でございますが、委託料で自立支援システム関係委託料は、事業費が確定しましたので減額でございます。続きまして、低所得高齢者支援臨時福祉給付金事業189万円の減額でございます。当初500名の方を予定しておりましたけど、430名でございました。続きまして、年金生活者等臨時福祉給付金事業21万円の追加。その下が臨時福祉給付金給付支援事業、経済対策分ということで、ことしの8月に閣議決定されて追加するものでございます。全体の費用916万5,000円で、1万5,000円、558人を対象としております。

続きまして、21ページの4目老人福祉費、補正額562万4,000円でございます。高齢者の外出支援事業は電話料等の追加、それから、老人福祉費一般の88万4,000円は国保診療所の裏の駐車場の造成工事でございます。8月22日に行いました全協の終了後に皆様と一緒に現場を見ていただきましたけど、当初、せせらぎ荘の裏のところで社協の職員の駐車場も兼ねて整備をする予定でございましたが、費用もかかることから、最小限にということで、補正予算のヒアリング後に再度見直しをさせていただきまして、必要最小限の修繕ということでございます。続きまして、老人ホーム入所措置費は、2名亡くなられまして148万円の減でございます。続きまして、高齢者交流サロン整備事業の工事請負費で、高齢者の交流サロンの外構工事が567万円、水道量水器の変更工事が19万3,000円ということで、ここにつきましても、11月の全協でサロンの外構工事を担当のほうから説明させていただきました。A案とB案という2つの案を提案させていただきましたが、事業費も多くかかるということで、なるべく圧縮をするようにというような指示で再度見直しさせていただきまして、A案をベースにして、全面舗装から駐車場以外のところは舗装なしで碎石をするということで、舗装面積が636平米から521平米に圧縮しました。それに伴いまして、すき取りや残土処理等の経費も減ったということで、84万円ほどの減額ということで計上させていただいております。

続きまして、2項1目児童福祉総務費、補正額9万7,000円。子育て支援室の運営事業で9万7,000円の追加。これは人件費の追加でございます。

続きまして、22ページの2目認可保育所費、補正額157万4,000円。ここにつきましても、給与改定等による人件費の追加と、職員手当では超勤手当が60万円、これは延長保育等に対応するために追加させていただきます。また、賃金につきましては、臨時保育士の賃金50万円が見込まれるので、追加をさせていただきます。

次、23ページでございますが、4款1項1目保健衛生総務費、補正額136万3,000円。ここに付き

ましても、給与改定に伴う人件費の増額、それから委託料で健康管理システム導入作業委託料ということで、予防接種の情報連携ツールとして32万4,000円を計上させていただいております。

続きまして、3目母子健康センター費4万5,000円、これも給与改定に伴う人件費の追加でございます。

5目の環境対策費10万円、ここにつきましても給与改定と、臨時職員の賃金につきましても不足が生じるということで2万8,000円の追加でございます。

それから、6目の廃棄物対策費51万1,000円の追加。産業廃棄物の処理の委託料でございますが、裏面へ行っていただきまして24ページですが、産業廃棄物収集運搬委託料でございます。これは柏本地内の古タイヤの不法投棄、それからストックヤードの搬入者不明の建築廃材等がございまして、これの委託料を見させていただくものです。その下が生活排水対策事業で、浄化槽設置事業の補助金ということで1基追加分でございます。

続きまして、6款1項1目農業委員会費、補正額115万4,000円。一般職員でございますが、現在、ここは担当の正職員がございませんが、今、安江参与がここを担当していただいております。参与につきましても総務課付でございますので、総務課のほうからお支払いをしておりましたが、この活動費につきましても国庫補助の対象にもなりますので、対象分の給与費につきましても総務課から組み替えをさせていただくものでございます。

続きまして、2目の農業総務費、補正額116万9,000円。これにつきましても、給与改定と超勤手当で100万円の不足が生じました。これも全体のところでございますが、1年間を見込んで超勤を出させていただきませんが、会計検査の対応とか、また新しい職員になった等で不足が生じてきておりますので、追加をさせていただきます。

それから、3目の農業振興費2,000円は農地流動化奨励補助金ですが、面積の増加に伴うものでございます。

続きまして、25ページの4目農業構造改善事業費、補正額53万円。ここは味の館の雨漏り対策工事ということで、雨どいの修繕、外壁防水工事等で53万円追加させていただくものです。

続きまして、7目農地費、補正額60万円。農道修繕工事ということで、柏本農道の雨水対策工事でございます。当初予算を組んでおりましたけど、積算の結果、60万円ほど不足が生じたということで追加をさせていただくものでございます。

続きまして、2項1目の林業総務費35万5,000円の追加でございますが、給与改定に伴うものと、それから共済費の負担金の追加でございます。

続きまして、2目の林業振興費3万5,000円につきましても、産直住宅の建設支援事業の補助金ということで、当初25棟分見ておりましたけど、26棟分ということで、1棟当たり7万円掛ける2分の1の補助ということで、3万5,000円の追加でございます。

続きまして26ページ、7款1項1目の商工振興費、補正額241万4,000円。商工振興費一般で241万4,000円でございますが、職員手当、共済費、それぞれ補正をさせていただいておりますが、当初の積算の見込み違いでございまして、ここにつきましても、手当等につきましても追加を新たにさせ

ていただくものがございます。

続きまして、2項の地域づくり推進費、補正額57万4,000円。こもれびの里の管理事業で、工事材料費として9万4,000円の追加。その下が村内製品の販売促進事業で48万円の追加ですが、内訳としまして、ふるさと納税の還元記念品代が当初よりも多く見込まれますので、700万円の追加をさせていただきますし、委託料でみのかも定住自立圏のR41カード事業の委託料でございます。ここにつきましては、みのかも定住自立圏で事業を提案させていただきましたけど、連携の自治体に生まれる効果というものが見込まれないということから、この事業は廃止をさせていただくことになりました。

続きまして、27ページの8款1項1目の土木総務費、補正額29万円。これにつきましても、共済費等、給与改定に伴う増額でございます。

2項1目の道路橋梁維持費、補正額204万8,000円。ここにつきましては、委託料としまして、国道256号及び県営農道ルート検討委託業務でございます。神付地内の五差路のところでございますが、国道256と県営農道のルートを検討するための委託業務を計上させていただきました。それから、使用料及び賃借料では、道路維持管理関係の機械借り上げ料で50万円の追加。工事請負費は、親田地内の井ノ平線の崩落対策工事ということで90万1,000円の追加でございます。

続きまして、3項2目の住宅建設費、補正額93万1,000円。委託料としまして83万4,000円、これは住宅景観等の支障木除去委託料ということで、現在建設中の中通の集合住宅の西側の支障木の除去でございます。それから、補償費は、それに伴う補償費ということで9万7,000円を計上させていただいております。

9款1項3目の災害対策費は財源の組み替えでございます。

続きまして、10款1項2目事務局費、補正額265万8,000円。教育委員会の事務局費でございますが、給料の改定に伴うもの、また職員手当につきましては超勤手当20万円を不足が生じるので追加させていただきます。それから、賃金につきましては210万円。ここは、ことしの中途、1名正職員が退職しまして、急遽臨時職員を上げさせていただいたわけですが、ここの分の不足が生じてきますので、来年の3月までの見込みを見ております。

続きまして29ページ、2項1目学校管理費、補正額24万円。小学校の管理費一般として、用務員の賃金の追加8万円、それからスクールバスの運転手の賃金の追加が16万円でございます。

それから、2目の教育振興費11万円でございます。これは、備品購入としまして、寄附金10万円をいただいて、それを財源に一輪車を6台購入する予定でございます。

続きまして、3項1目の学校管理費、補正額23万円。中学校の管理費としまして、用務員の賃金に不足が生じる見込みでございまして、16万円追加。それから、中学校の施設当繕費で7万円でございますが、教室の照明の安定器のふぐあいがございましたので、修繕をさせていただきます。

続きまして、10款5項2目の体育施設管理費、補正額33万円の減。スポーツトラクターを購入させていただきましたけど、事業費が確定しまして、不用額の33万円を減額するものでございます。

11款1項1目農業用施設災害復旧費80万円、村単の神付農地災害復旧工事ということで、台風17

号で崩壊しましたのり面の復旧工事でございます。

○議長（服田順次君）

参事兼村民課長 小池毅君。

○参事兼村民課長（小池 毅君）

議案第77号 平成28年度東白川村国民健康保険特別会計補正予算（第3号）。平成28年度東白川村国民健康保険特別会計補正予算（第3号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）第1条 既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ4,007万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ4億6,010万3,000円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第1表 歳入歳出予算補正」による。平成28年12月16日提出、東白川村長。

2ページからの歳入歳出予算補正から6ページの補正予算事項別明細書の朗読を省略させていただきます。7ページの歳入から説明させていただきます。

3款1項1目療養給付費等負担金、補正額1,364万円。療養給付費の負担金の増額によるものがございます。

2項1目の財政調整交付金、補正額が383万円。普通調整交付金でございます。

6款1項1目県補助金、補正額が40万4,000円。財政健全化特別対策費の補助金の額確定による増でございます。

2目の県財政調整交付金383万円の増。県財政調整交付金の増額でございます。

9款1項1目の一般会計繰入金、補正額が1,837万4,000円。この内訳ですが、法定分としまして、保険基盤安定制度分が14万3,000円、財政安定化支援事業分が60万1,000円、事務費分が7万8,000円、それから法定外の繰り入れ分が1,755万2,000円ということで、補正総額4,007万8,000円となっております。

次、9ページの歳出でございます。

1款1項1目の一般管理費、補正額が7万8,000円の増。これは、給与、手当、共済費等の一般管理費で給与改定による補正でございます。

2款1項1目一般被保険者療養給付費、補正額が2,500万円。これは、一般療養給付費が不足する見込みによる増額補正でございます。

それから、2項1目の一般被保険者高額療養費、補正額が1,500万円。先ほどの専決で年内の分の高額療養費は補正をさせていただきましたが、年明け以降の分が不足しておるということで、増額をさせていただいております。以上でございます。

○議長（服田順次君）

建設環境課長 今井義尚君。

○建設環境課長（今井義尚君）

議案第78号 平成28年度東白川村簡易水道特別会計補正予算（第3号）。平成28年度東白川村簡易水道特別会計補正予算（第3号）は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算の補正) 第1条 既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ262万1,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ2億8,552万円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第1表 歳入歳出予算補正」による。平成28年12月16日提出、東白川村長。

次のページの第1表 歳入歳出予算補正、並びに次のページの簡易水道特別会計歳入歳出補正予算事項別明細書を省略いたしまして、7ページの歳入から説明いたします。

歳入。

3款1項1目繰越金97万6,000円、前年度繰越金でございます。

5款1項1目分担金、補正額34万5,000円。この分担金につきましては五加交流サロンの分担金でありまして、当初の施設は13ミリでありましたけれども、今回サロンになるということで、水が足りないというようなことで、一回り大きくして20ミリに変えるということで、差額金の分でございます。

9款1項1目雑入、補正額130万円。水道管支障移転費でございますが、先般の全協の折にも説明いたしました県からの水道管の移転補償費でございます。9月の台風16号の豪雨がありまして、それが原因で崩れたというようなことで、可茂土木が災害復旧工事を行うということで、ちょうど歩道に水道管が布設されておりまして、支障になるということでの移転補償費でございます。

次、歳出。

1款1項1目一般管理費62万3,000円。一般管理費で給与、職員手当、共済費とありますけれども、今回の給与改定に伴うものでございます。職員手当につきましては、3月までの手当が不足するためのものでございます。積立金につきましては、先ほどの歳入で説明しました分担金の34万5,000円を基金に積み立てるものでございます。

3款1項1目施設維持管理費、補正額199万8,000円。工事請負費で199万8,000円でございますが、先ほどの国道256の支障移転費工事でございます。

以上が簡易水道特別会計でございます。

次に、議案第79号 平成28年度東白川村下水道特別会計補正予算(第2号)。平成28年度東白川村下水道特別会計補正予算(第2号)は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算の補正) 第1条 既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ36万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ2,673万2,000円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第1表 歳入歳出予算補正」による。平成28年12月16日提出、東白川村長。

次の第1表 歳入歳出予算補正、並びにその次の事項別明細書を省略いたしまして、7ページの歳入から説明いたします。

3款1項1目繰越金、補正額36万8,000円、前年度繰越金であります。

次に、歳出。

1款1項1目一般管理費、補正額36万8,000円。給与5,000円と職員手当、あと共済費ございま

して、今回の給与改定に伴うものでございます。超勤手当も3月までの不足する分を補正したものでございます。

以上が下水道特別会計でございました。

○議長（服田順次君）

診療所事務局長 伊藤保夫君。

○国保診療所事務局長（伊藤保夫君）

議案第80号 平成28年度東白川村国保診療所特別会計補正予算（第3号）。平成28年度東白川村国保診療所特別会計補正予算（第3号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）第1条 既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ295万3,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ2億7,099万円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第1表 歳入歳出予算補正」による。平成28年12月16日提出、東白川村長。

2ページ、3ページの第1表 歳入歳出予算補正の朗読を省略し、5ページ、6ページの歳入歳出予算事項別明細書の総括の朗読も省略させていただきまして、7ページから説明させていただきます。

歳入。

3款2項1目医療費補助金、補正額9万6,000円。僻地医師研修支援補助金、これは今年度、県で僻地医療機関に勤務する医師の研修に要する経費に対して県が補助する制度を始められましたので、その費用を補正するものでございます。

6款1項1目繰越金、補正額268万3,000円、前年度繰越金でございます。

7款1項1目雑入、補正額17万4,000円。臨床協力病院への医師臨床研修費補助金でございます。これにつきましては、基幹病院でございます下呂病院の研修医が他の病院ということで、東白川診療所等で研修する場合がございますが、その受け入れ期間、例えば一月とか2週間とかに基づいて、下呂病院が協力病院に配分する補助金でございますが、これについて、下呂病院のほうは平成24年度から27年度分のほうを受け入れだけして、配分をし忘れたということで、その分が4年分で17万4,000円ということで今回受け入れをするものでございます。

続きまして、歳出でございます。

1款1項1目一般管理費、補正額23万2,000円の減額でございます。給料、職員手当については職員の異動による給料の減、あと給与改定による増ということでございます。

2款1項1目一般管理費、補正額318万5,000円でございます。これは、医業一般管理費の給料、職員手当につきましては、給与改定等に伴います増額分でございます。賃金、看護師賃金でございますが、本年5月から看護師1名を採用して、その分の賃金の増と、既存の看護師の賃金の不足による増額ということで260万円でございます。以上でございます。

○議長（服田順次君）

ここで10分間の休憩をしたいと思います。その後、質疑に入りますので、よろしくお願いを申し

上げます。

午後 2 時 29 分 休憩

午後 2 時 40 分 再開

○議長（服田順次君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

[挙手する者あり]

3 番 桂川一喜君。

○3 番（桂川一喜君）

一般会計の23ページの一番最終行にございます廃棄物対策費のところ産廃産業廃棄物対策事業の産廃収集運搬委託料が今回20万円というのが出ているわけですが、先ほど説明の中にありましたが、片方は通常不法投棄の件の古タイヤということで説明されましたけど、もう一個、ストックヤードの場所にあった不法投棄について、どういうことか、説明をちょっとお願いします。

○議長（服田順次君）

建設環境課長 今井義尚君。

○建設環境課長（今井義尚君）

ストックヤードにつきましては、平成15年に組合ができて、ストックヤードにそれぞれ廃棄物を一時ストックして、管理組合のほうで処分に出していたわけですけれども、平成22年ごろまでは順調に来ていましたけれども、最近、時代も変わってきて、現場で片づけるようになりまして、ストックヤードへ持ってくる数量がほとんどなくなってしまったというようなことで、ことしの10月にストックヤードの管理組合が解散いたしました。次に、山に生きる会のほうへ管理を委託するというふうに移譲したということで、それに伴いまして、まだプラスターボードが二、三十袋残ってまして、その中に所在不明のものが4袋ぐらいあったということで、残りの分は全部それぞれ3社がかかわっておりまして、3社で片づけるということになりましたけれども、その4袋につきましては所在が不明ということで、組合員全員に確認しましたがけれども、心当たりがないというようなことで、どうかならないかということで相談がありまして、出所不明というようなことで、公共施設の周りに不法投棄があったのと同じ扱いとして、村が今回処分するものであります。以上です。

[挙手する者あり]

○議長（服田順次君）

3 番 桂川一喜君。

○3 番（桂川一喜君）

今の説明は、かねて議運のときに説明を受けていた内容と若干違う部分がありますが、そこは大

きく問題ではなくて、これは一般の道路等ですと、不法投棄が多い場所は啓発看板等を出していただくように要望すると大体立てていただいて、一定の効果が出ているというのは伺っていますけれども、今回のこのストックヤードにつきましては、多分一般の公有地とは違う問題が発生しているであろうと思われまます。

そこで、今後二度と同じことが起きないようにしてもらおう対策をしっかりと練る必要もあると思いますし、もう一個、今の話を伺っていると、少し事業者側に対しての責任追及はその程度でよかったのか。もしかしたら、本当に事業者が無関係であったかどうかを確認することがもう少し強い態度で必要だったかどうかということも含めまして、今後の対策をしっかりと練るということも含めた質問をさせていただきたいと思います。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

今、課長が説明しました平成15年以降、途中で管理がしっかりできてなくて、管理組合のほうがしっかりとした受け入れとかいうものをしていなかったことに対する資料不足、これは認めます。大変申しわけなかったと思っております。しかし、この解散に当たって、どこへその費用を振り分けるかということについては合理的な回答が得られなかったので、やむを得ず村で処理費を、4袋分ですが、見るということにしたわけです。

これは私の個人的な感想なんですけど、実は当時商工会のときに、中学校で枝切りをやって、それを、美道議員も覚えてみえるかと思いますが、トラックに積んで、あそこへ持ち込んで、そういったものも実は中に入っておった。その中にたまたまプラスチックボードなんかも放り込まれておったのではないかということで、全部が全部業者のものにするにはちょっと不確かということで、合理的ではないので、村で今回きれいにしてしまいたいということでやりました。

もうストックヤードとしては使わずに、まだ管理委託は正式にはしていませんけど、ことしの予算でお認めいただいたまき割り機を既に設置をして、周辺の整備も、若干の補助金を出して、山に生きる会があそこをまきの製作場所にしていくということで切りかえをしていく過程でございますので、向こうも一般社団法人化されたということで、管理委託先として適当ではないかということで、今後議会の認定をいただいて、山に生きる会のまきの生産、あるいは保管の場所として活用していくということにしていきます。今はその過程ですので、今後、あそこは廃棄物を持ち込むところではないということになりますので、今までの4袋の不明ということについてはおわびをしながら、補正予算をお認めいただきたいということでございます。

○議長（服田順次君）

ほかに質疑はありませんか。

[挙手する者あり]

4番 樋口春市君。

○4番（樋口春市君）

一般会計の17ページの担い手事業の件ですけれども、造成工事の中に進入路の工事費も含まれてくるのかということと、日本仕事百貨に掲載するという事で委託料が含まれておりますけれども、それ以外に、この担い手のPRは何かお考えになっているか。その2点。

○議長（服田順次君）

振興課長。

○産業振興課長（今井 稔君）

1つ目の進入路というのは、上がってくるということですか。そこは特に構う予定はないんですけど、今回の造成につきましては、今、清田宅があったところは今まで宅地でございましたので、ほぼ直す必要はないと思っております。その下の段を駐車場にする計画でございますので、そちらのほうの舗装と、それからU字溝とか、そういったものを入れて、それから道路との境界のところが全く危険でございますので、そういったところにフェンスをやる予定でございます。そういった造成工事ということで、この金額につきましても、まだ先般、土木部会の部長さんに見積もりをお願いしたところなんですけれども、やはり設計をちゃんとせんと見積もりが出んというような御返答でございましたので、ここに上がっておる金額につきましては、今、地方創生で申請をしておるところの金額でございますので、その辺よろしくお願ひしたいと思ひます。

2つ目の仕事百貨の掲載につきましては、今回は林業・木材・建築業の担い手ということで、そちらに限っての募集となります。以上でございます。

〔「それ以外に考えておるか」と呼ぶ者あり〕

今のところは日本仕事百貨になっておりますけれども、先般、商工会の懇談会のときでも、今回の事業につながります、来年度また新年度の予算で1人15万という補助金を出すことを皆さんに知っていただいておりますけれども、各事業所でもある程度募集をかけていくというような話も聞いておりますので、今回、村のほうとしましては、お金をかける部分につきましては、仕事百貨のみという今のところの計画でございますけれども、まだちょっとこれから様子を見ながらやっていきたいなというふうにご考慮しております。

〔挙手する者あり〕

○議長（服田順次君）

4番 樋口春市君。

○4番（樋口春市君）

せっかくのこうした育成事業でございますので、先日も村長にも質問いたしましたけれども、ぜひともPRに向けて全力で取り組んでいただきたいと思います。せっかくのこうしたものを生かしていただきたいと思いますということを思ひますので、よろしくお願ひをいたします。

○議長（服田順次君）

ほかに質疑ありますか。

〔挙手する者あり〕

1番 今井美和さん。

○1番（今井美和君）

一般会計の13ページの諸収入の透析通院支援中津川市負担金、マイナス12万というのがあるんですけど、先ほどの説明で事業の取りやめというお話を受けたのですが、ちょっとこの詳細について教えていただきたいんですけど。

○議長（服田順次君）

診療所事務局長。

○国保診療所事務局長（伊藤保夫君）

この予算を立てた経緯はちょっと私も詳しく存じておりませんが、中津川市で下呂方面へ透析通院をうちがやっておるわけですけれども、そのときに加子母の人で何人か透析を今やっている人があるということで、その人も東白川の車両に乗っていけないかという話があつて、当時計上されたと思いますけれども、うちも今は対応できる人数でやっておりますが、うちがこれから上下したときとか、加子母の方も何人見えて、それに乗れるかとか、中津川市全体を考えてどうかというようなことも、中津川市さんもいろいろ考えがあつたかと思つておりますけれども、一応中津川市さんのほうで、ことしに入って、特にこちらのほうへそのことについて話がなかつたというようなことで、今回減額させていただいたと思つております。

○議長（服田順次君）

ほかにありませんか。

〔挙手する者あり〕

2番 今井美道君。

○2番（今井美道君）

一般会計の歳出、2款1項1目、15ページになりますけど、先ほど白川・東白川地域の公共交通活性化協議会の負担金ということで、これのみで135万円だというふうに聞こえたんですけど、結構な金額なんですけど、この協議会がことし動き始めて、アンケート等もとってみえますけれども、この辺どういった形で進んでいるのかと、この135万円がどういった使われ方をするのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（服田順次君）

参事。

○参事兼総務課長（安江良浩君）

この135万円は全体事業費の東白川の負担分で、ここにつきましては今回の国勢調査の人口を基準にして案分したものでございます。この135万円の内訳につきましては、まだ今のところはアンケート調査しかやっておりませんが、その経費と、それから分析が大学でほとんどできたそうですので、来年の1月に行われます協議会でその結果について来るかもしれませんが、そういったところの人件費、それから委員さんの報酬、そういったものを全部合わせて、案分したのが135万円でございます。

今のところ、進捗状況につきましては、白川町と東白川の住民の方のアンケート調査を委託され

ております名古屋大学が持ち帰りまして、その分析と、また白川は白川で独自の調査をしておりますので、そういったものを分析しながら、また後日、委員さん等に報告をするということでございます。今のところはその程度の進捗状況であります。

○議長（服田順次君）

ほかに。

[挙手する者あり]

6番 今井保都君。

○6番（今井保都君）

この件に関して、村では東白川村福祉有償運送法というか、そういうものに基づいて、5つぐらいの村内拡充支援とか、中核動員支援とか、透析の支援とか、いろいろ細かい配慮でやっているわけですけど、今後、公共交通の中で東白川村が独自でやっていることは、やっぱりこれを含めて、全体を見直していくのか。村が単独でやっていることについての意義というか、そういうものは今後どういうふうになるのか、その辺もうちょっとお聞きします。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

この地域公共交通会議といいますか、調査は、濃飛バスが将来路線廃止をする可能性があるというところで、非常に危機感を持って去年から取り組んだことは御承知かと思います。当然ながら各バス路線は、今後どういう需要があって、どういう時間帯で動かせば、住民の皆さんが安心できるかということを目先に置いておりますが、今、議員御指摘の東白川村独自でやっている、例えば透析の通院支援であったり、買い物支援であったり、あるいは子供さんたちの通学支援であったり、こういったことも、東白川村としてはこれだけのことをやっているんだから、どういう位置づけで今度の事業でもしやる時にはなるかということを含んでやっております。これはまだ全然わからないことで、単独で継続して、濃飛バスだけやることになるかもしれませんし、ある事業体が白川と東白川村で協力できて、その事業部門として今までのサービスが継続してやれるかもしれません。私は、将来計画の中ではそういった新しい事業体をつくって、全体を、スクールバスの運行も含めて経済的かつ効率的にやれるのが一番いいだろうというふうには思っていますが、その結論を得ていくための調査・研究を専門家にやっていただくということで、今は基礎調査、来年度は国の助成金等も取りながら、国の利用できる制度等も十分研究してみえる研究室ということで、そこでこの先生にお願いしたということになっておるわけなんですけど、地域公共交通の再構築ということで考えております。

東白川村の今のサービスが落ちることのないよう、むしろもっと小まめにやれるようにしたいなと思っています。これは、今後、私どももしっかりと意見を出して検討していきますので、位置づけとしては今そういうことでございますので、よろしくお願ひします。

○議長（服田順次君）

ほかに。

[挙手する者あり]

1 番 今井美和さん。

○1 番（今井美和君）

今の関連なんですけど、ことしの春か、昨年に、村長が濃飛バスから、ことしの10月、11月までに来年度やるか返答がもらえるという話を聞いていたんですけれども、その後、来年廃止という予定はないということによかったですか。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

心配なかったので、お答えしませんでしたけど、一応濃飛バスは、今の状況なら来年は大丈夫。その後も多分大丈夫ぐらいのニュアンスでお答えをいただいておりますので、来年度については、この白川・加子母線については今までどおりの運行です。ただし、土・日の運休は一緒ですので、その対策はやっていかなあかんということでございます。

○議長（服田順次君）

ほかに質疑はありませんか。

[挙手する者あり]

3 番 桂川一喜君。

○3 番（桂川一喜君）

一般会計15ページの物件管理費の中にあります需用費、修繕料の中に役場別館の誘導灯修繕料というのが上がっていましたが、先ほど説明の中で、消防署の指導のもとという文言が入っていましたが、例えば火災報知機等ですと、気づくのがおくてということがありますが、誘導灯などの不備は本来目視で結構確認がとれるものの一つではないかと思っています。実はここで幾らか予算がついていることに対する疑問が2つありまして、まず指導されるまで、どうして放っておいたのかということが一つ。それから、せんだって、越原センターも誘導灯が壊れていますよということを相談したときには、これは村の建物でありますので、当然保安に対する、特に住民に関するようなものは区で直すのではなくて、村のほうで直しますといった返事のまま、結構お金がかかるねというところでとまっていた経緯があったと思いますが、やっぱり命等に直接かかわってくるこういう非常灯につきましては、指導があつてから直すというような態度もちょっとどうかと思いますし、先ほど言いましたように、まだ村の施設等で不備が確認されているのにもかかわらず、直してないものがあるように見受けられますが、ちょっとこの辺、今回のことに限らず、今後の対応等も含めましてお答えいただきたいと思います。

○議長（服田順次君）

参事兼総務課長。

○参事兼総務課長（安江良浩君）

庁舎本館、別館の維持管理等管理につきましては行政系のほうでやっておるところでございます。先ほど消防の立ち会いの指摘があって改善するものにつきましては、工事請負費の火災報知機の設置工事と屋内の消火栓ホースの交換工事でございます。火災報知機の設置工事につきましては、2階のロビーに喫煙のボックスがございまして、その隣にブースがあって、1部屋つくっております。そのところに火災報知機がないということで今回指摘がございましたけど、当時、喫煙ボックスをつける際に消防署から立ち会いをしていただきました。そのときには火災報知機の設置義務はなかったわけですが、今回、改めて法定検査をしたときに必要ですということと、それから、屋内の消火栓ホースは、本当でしたら年に1回ぐらいは点検をするべきものですが、ずうっとそのままにしておって、もうかえなければいけない状況になったということで御指摘を受けましたので、今回やらせていただきます。

また、役場別館の誘導灯は4階の誘導灯でございますが、ここにつきましては、毎年法定点検を業者さんに委託して点検をしていただいております。火事の場合につきましては、中の内部電池でしのぐことはできますけど、中の安定器が壊れておることが点検の結果わかったことでございますが、御指摘のとおり、本来でしたら管理する者の責任として、何カ月に1回は点検をして、不備なものについては交換、または修繕するのが本当のところでございますので、今後はそのようにやっていきたいなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（服田順次君）

ほかに質疑ありませんか。

[挙手する者あり]

3番 桂川一喜君。

○3番（桂川一喜君）

今のお答えで、1つは、確かに確認がとれてなかったということで、今回やるということがわかりましたけれども、そのほか、先ほど言った越原センターにおきましては、前から相談しているのが、まだこの秋にも修理が終わっていないと。その辺、もう少し危機感を持っていただきたいということで、今後、姿勢として、たまたま今回、終わったことの報告だけではなく、もう少し積極的な避難誘導、特に火災関係の避難誘導については、集会施設を中心にやっていただきたいということに対するお答えもちょっと願ひしたいと思います。

○議長（服田順次君）

村長。

○村長（今井俊郎君）

おっしゃるとおりですので、一斉点検を行います。

○議長（服田順次君）

ほかに。

[挙手する者あり]

1番 今井美和さん。

○1番（今井美和君）

16ページの10目の説明のところなんですけど、工事請負費のところでは電柱移転工事で82万3,000円、先ほどの説明で太陽光パネルの移転ということだったんですけど、これって村の土地の太陽光パネルだから、工事費を村で払うということによろしいですか。

○議長（服田順次君）

参事。

○参事兼総務課長（安江良浩君）

ここの土地は民間の方で、既に中電等についてはもう撤去されておりますので、CATVだけがまだそこに残ったということで、ちょっと太陽光があるもんで、電柱が邪魔になる、上の線が邪魔になるということで、ちょっと大回りをしていかないかんという工事が発生したということでございます。

[挙手する者あり]

○議長（服田順次君）

1番 今井美和さん。

○1番（今井美和君）

ということになると、これからもしかして太陽光パネルをどんどん建てる方がいて、移動してということになると、村が負担していくということもあり得るということですか。

○議長（服田順次君）

参事。

○参事兼総務課長（安江良浩君）

村の敷地内でしたら当然あれなんですけど、民間の土地をお借りしてやっておるので、ひょっとしてそのところにうちを建てたり、太陽光パネルということになると、移動しなければいけないので、その辺のところも含めて、選定場所をしっかりとものにしていきたいと思っております。

○議長（服田順次君）

ほかに質疑はありませんか。

[挙手する者あり]

3番 桂川一喜君。

○3番（桂川一喜君）

一般会計26ページ、商工費の地域づくり推進費のこもればの里総合管理事業の補正が上がっていますが、こもればの里は、最近の利用度から考えた場合、上の芝生の広場と呼ばれるところが、どうしても天候が悪いときなんかは車両を入れると下がひどいことになってしまったり、利便性においても、かなり住民の方が不便だと言われているさなか、例えば来年度、かも1グランプリ等が計画されているとき、まだそこは駐車場に使うとか使わないとか、そういうことは別としまして、結構駐車場の需要というのが日々上がっている中で、特にはなのき会館等でイベント等を行われたときの駐車場がどうしても不足がちな中で、こう薬を張って、突発的なやつに対応していくような施

策だけではなく、しっかりとした、ある程度駐車場として確保したり、それからもう一個は、イベントをするときの会場としましても、下が土壌のままですと何かと便宜性がいいというよりは悪いほうに転がっているだろうと予測されますが、今回の補正についての考え方以上に、あの里はこう菓を張るような施策ではなくて、きちんとした整備をし直すようなお考えがあるかないかだけちょっと伺っておきます。

○議長（服田順次君）

村長。

○村長（今井俊郎君）

こう菓を張るという表現をされましたけど、秋フェスタのときに、ノウサギのふんが非常に散見できたので、衛生上これではまずいということでやったということで、急遽の手当てでございます。ぐちゃぐちゃを直していくということについては、今までも何回も苦勞して、板を敷いたりとか、いろいろしてまいりまして、私どももあそこを舗装したらどうかという考えを持っておるわけなんですけど、非常に大きい面積で、舗装費もかかるということで、いつも見送りをさせていただいておるということになってしまっております。一般財源が厳しい中でよく言う、どちらが優先かというところになって、ちょっと後ろに来ているというふうに思って、私もやりたいなどは思いながらも今までに至っております。

芝生広場ということで整備をして、子供さんたちがあそこで合宿をして、テントを張ってという雰囲気やってきたところの価値もあって、最近はその人数も減ったので、一部を残せばいいんじゃないかというような議論もあったり、キャンプファイヤーができる場所はあそこしかないのかというようなこともありますので、そういったことも総合的に考えて、いずれ駐車場としてしっかり使っていくなら駐車場とする。でも、芝生広場という今までの交流ゾーンとしての位置づけならば、やむを得ず芝生を残していきたい。芝生というか、今は土の状態かもしれませんが、ここはちょっと考えたいというところですが、今、結論を急いで、舗装にしたいという考えは今は持ってありません。

○議長（服田順次君）

ほかに質疑はありませんか。

〔挙手する者あり〕

1 番 今井美和さん。

○1 番（今井美和君）

簡易水道特別会計の7ページ、歳入、5款1項1目分担金のところで、ちょうど一般質問も水道のことをしたので、ちょっと気になったので、一応参考のために教えていただきたいんですが、加入者負担金が34万5,000円で、今度、口径20ミリのものにかえるということだったので、20ミリ、一般で59万5,000円の負担金なんですけど、この34万5,000円という金額は、どういうふうに出てきたのかなということで、この59万5,000円、本当の20ミリ口径のものから、最初に加入された25万、一番当初の25万を引いたものがこれになるのか、公共の施設の場合は少し安くなる何か設定がある

のか、ちょっとお聞きします。

○議長（服田順次君）

建設環境課長。

○建設環境課長（今井義尚君）

これは公共施設であるために安いとかいうことではなくて、みんな一律です。一応13ミリは41万1,000円、20ミリだと59万5,000円ということで、当初13ミリで加入しておりましたので、その差額ということで34万5,000円ということでございます。

〔挙手する者あり〕

○議長（服田順次君）

1番 今井美和さん。

○1番（今井美和君）

今の説明ではちょっと金額が合わないので、13ミリ口径の41万1,000円ではなくて、一番最初に加入された、多分平成4年の25万のことだと思うんですけど。

○建設環境課長（今井義尚君）

ごめんなさい。そうですね。当初25万円というものでございました。

○議長（服田順次君）

ほかに質疑ありませんか。

〔挙手する者あり〕

2番 今井美道君。

○2番（今井美道君）

今、1番議員のほうから水道のことがありました。これ、一般会計の3款1項4目のサロンの差額ということで今度こっちへ来ると思うんですが、メーターの量水器の変更工事費で19万3,000円で、負担金で34万5,000円を村が簡易水道特別会計に支払うということで、簡易水道のほうはこれを基金のほうに入れますよという形になると思うんですが、ここで実際の工事費19万4,000円と15万円ぐらいが村としては残るといったら変ですけど、こういったお金の流れで、公共施設も全てそういう形で払って行って、実際にはもっとかかる。メーターまでの距離が長かったりすると19万3,000円では済まない工事もありますよね、当然。そこそこの箇所によるので、先ほどの四十何万が妥当かどうかといったときに、メーター工事がそれでやれる場合と全然やれない場合が多分出てくるかと思うんですけど、質問というか、あれなんですけど、そういったことでよろしいんですかね。確認です。

○議長（服田順次君）

建設環境課長。

○建設環境課長（今井義尚君）

今の31万1,000円とかいうものは全て加入金ということで、以前は工事分担金という形で、ですから工事費の一部を当初はそれから補って、全家庭の工事をやっただと。今はほとんど全て、全村水

道化されていますので、後から希望される場合は加入するという形で、以前に施設とか、そういうものは全て整っていますので、それを今後維持とかしていくためのものを加入金としてもらうということで、そのためですので、工事がどれだけかかろうが、あくまでもこれは加入金という意味合い、要は権利金という形のようなものです。

○議長（服田順次君）

ほかに。

[挙手する者あり]

3番 桂川一喜君。

○3番（桂川一喜君）

一般会計17ページの総務費、総務管理費の中の地方創生のつちのこメンバーズカードの事業で、また今回も100万の補正が上がってきていますが、前、全協のときも少しお伺いしましたけれども、これ、受益者が本当に回り回って村民であるというような表現はされますが、直接的な受益者はやっぱり村外者です。今のところ、僕はどうしても疑問を呈するのは、際限なく毎回毎回補正でどんどん上がっていくわけですが、どこまでを上限とするお考えがあるのか。これ天井知らずで、とにかくどんどんどんどん上げてしまうという考え方が本当に住民の利益につながっているのかというのを、ちょっと本会議の上でもう一度御確認させていただきたいと思います。

○議長（服田順次君）

村長 今井俊郎君。

○村長（今井俊郎君）

つちのこメンバーズカードは、村外のお客様が東白川村で消費していただいたときにポイントをつけるという原則で運用しております。村内の商店が経営維持していただくことも、ひいては村民の皆さん方の利益になるということで、それを応援する形での制度ということでございます。

上限ということについては、人数で縛るのか、あるいは年度で縛るのかということになるかと思いますが、当面は推移を見守って、経済効果がどれだけあるか。先ほどの一般質問の議論ではございませんけれども、それぞれの消費の状況が、ポイントを発行したお店の聞き取り調査をしたりして、政策効果を検証していく必要はあると思います。今のところ、制限、例えば発行枚数制限、あるいは金額の制限は考えておりません。ただ、細かい運用について、この間、商工会の懇談会の中でいろいろ御意見もいただいたので、一度、参加加盟店と、当初の出発からちょっと発展的になっておりますので、当初は5%引きであったり、送迎サービスであったり、そういったものもついておったわけですが、その辺のところの兼ね合いについての御意見もあったので、一度担当課のほうでよく検討させます。その結果でまた制度が変更になる可能性はありますけれども、今は村内商業者の支援のための制度として、村民が最終的には、商店も村民ですけれども、商店が存続をしていただけることによって地域の住みやすさというのが実現されておるといことで、これは甚だ直接的な還元ではないかもしれませんが、考えております。

じゃあ、村民の皆さんは不公平じゃないかという御議論がこの間ありました。ですが、これにつ

いては、つちのご商品券のプレミアムの部分で村民の皆さんが大いに利用していただいております、これも村内での消費拡大という形の制度でございますので、2つの制度が相まって、東白川村の商店、サービス業がしっかりと経営していけるような応援策ということで、いましばらくは事業の効果を見届けていき、これも費用対効果で、これ以上出たら、とても一般財源はつけていけないぞという状況も出てくるかもしれません。それはそのときの判断をすべきであろうと思います。今はこの状況で続けていきたい。実際村外からお客さんがふえておる。ポイントはもちろん当然ですけど、村外の方たちばかりでするので、それだけこちらへ足を運んでおっていただくということは确实、明々白々でするので、効果が上がっている事業だと思います。また、データどりも一回してみたいなというふうに思っております。

○議長（服田順次君）

ほかに質疑ありませんか。

[挙手する者あり]

1番 今井美和さん。

○1番（今井美和君）

一般会計の20ページですが、真ん中あたりに低所得高齢者支援臨時福祉給付金事業というのがマイナス189万円。これが当初500名の予定で、確定が430名という、さっき説明だったんですけど、国からのお金なんですけど、もともとの基準が違ってきたのか、70名も違うということは、大まかに見積もり過ぎたということなのか、ちょっと説明をお願いします。

○議長（服田順次君）

参事。

○参事兼総務課長（安江良浩君）

大まかと言えば大まかなんですけど、一応来年度はこのぐらいになるというような予測で見ておったものが、実際に給付した場合には430人となったことでございます。これについては、多分情報センターからの資料の提供もあったと思いますけど、その辺の見込みのところの甘いというか、100%国庫補助の対象になっていきますので、そのまま、ちょっと多目に計上した経緯もございます。

○議長（服田順次君）

ほかに質疑はありませんか。

[挙手する者なし]

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

[挙手する者なし]

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第76号 平成28年度東白川村一般会計補正予算（第6号）から議案第80号 平成28年度東白川村国保診療所特別会計補正予算（第3号）までの5件を一括して採決します。

お諮りします。本件は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。したがって、議案第76号 平成28年度東白川村一般会計補正予算（第6号）から議案第80号 平成28年度東白川村国保診療所特別会計補正予算（第3号）までの5件は、原案のとおり可決されました。

◎東白川村選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙について

○議長（服田順次君）

次に、日程第19、東白川村選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙を行います。

東白川村選挙管理委員会委員及び同補充員の任期満了については、平成28年11月28日付、東選第90号の2で東白川村選挙管理委員会委員長より議長宛てに通知がありました。

任期満了の時期は平成28年12月25日となっておりますが、委員の選挙については、地方自治法第182条第1項で、選挙権を有する者で、人格が高潔で、政治及び選挙に関して公平な見識を有する者のうちから、普通地方公共団体の議会においてこれを選挙すると定められておりますので、申し添えます。

お諮りします。選挙の方法については、地方自治法第118条第2項の規定によって、指名推選にしたいと思えます。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。したがって、選挙の方法は、指名推選で行うことに決定しました。

お諮りします。指名の方法については、議長が指名することにしたいと思えます。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。したがって、議長が指名することに決定しました。

ここで暫時休憩とします。

午後3時21分 休憩

午後3時23分 再開

○議長（服田順次君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

ただいまから東白川村選挙管理委員会委員及び同補充員の指名を行います。

選挙管理委員会委員には、栗本重秋氏、五加337番地、昭和24年10月21日生まれ、桂川美里氏、越原918番地5、昭和25年7月31日生まれ。安江悦子氏、神土359番地、昭和28年2月10日生まれ、村雲知巳氏、神土4888番地1、昭和31年6月20日生まれ、以上の方を指名します。

次に、選挙管理委員会補充員には次の方を指名します。

第1順位、小池毅氏、五加1860番地2の1、昭和31年6月21日生まれ、第2順位、安江良浩氏、

神土1737番地2、昭和34年2月9日生まれ、第3順位、伊藤保夫氏、越原919番地1、昭和34年5月11日生まれ、第4順位、安江誠氏、神土2206番地、昭和34年11月17日生まれ、以上の方を指名します。

お諮りします。ただいま議長が指名いたしました方を選挙管理委員会委員及び同補充員の当選人と定めることに御異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。したがって、ただいま指名いたしました方が選挙管理委員会委員及び同補充員に当選されました。

当選された方々には、文書で当選されましたことを告知いたします。

ただし、本日、議場に出席の方につきましては、この場で当選されましたことを告知いたしますので、御了解ください。

◎発議第2号について（提案説明・質疑・討論・採決）

○議長（服田順次君）

日程第20、発議第2号 地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書についてを議題とします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

4番 樋口春市君。

○4番（樋口春市君）

地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書提出に当たり、意見書を朗読させていただきます。

地方分権時代を迎えた今日、地方公共団体の自由度が拡大し、自主性及び自立性の高まりが求められる中、住民の代表機関である地方議会の果たすべき役割と責任が格段に重くなっている。

また、地方議会議員の活動も幅広い分野に及ぶとともに、より積極的な活動が求められている。

しかしながら、昨年実施された統一地方選挙において、町村では議員への立候補者が減少し、無投票当選が増加するなど、住民の関心の低下や地方議会議員のなり手不足が大きな問題となっている。

こうした中、地方議会議員の年金制度を時代にふさわしいものにすることが、議員を志す新たな人材確保につながっていくと考える。

よって、国民の幅広い政治参加や地方議会における人材確保の観点から、地方議会議員の厚生年金制度加入のための法整備を早急に実施するよう強く要望する。

提出者、樋口春市、賛成者、桂川一喜、同じく賛成者、今井美道。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。平成28年12月16日、東白川村議会議長服田順次様。

意見書の提出先、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、厚生労働大臣

宛て。

○議長（服田順次君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔挙手する者なし〕

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

〔挙手する者なし〕

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから発議第2号 地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書についてを採決します。

お諮りします。本件は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。したがって、発議第2号 地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書については、原案のとおり可決されました。

◎閉会中における議会運営委員会の継続調査について

○議長（服田順次君）

日程第21、閉会中における議会運営委員会の継続調査についてを議題とします。

本件について、趣旨説明を求めます。

議会運営委員長 桂川一喜君。

○議会運営委員長（桂川一喜君）

平成28年12月16日、東白川村議会議長 服田順次様、議会運営委員会委員長 桂川一喜。

閉会中の継続調査申出書。

本委員会は、所管事務のうち次の事件について、閉会中の継続調査を要するものと決定したので、東白川村議会会議規則第75条の規定により申し出ます。

1. 会期及び会期延長の取り扱いについて、2. 会期中における会議日程について、3. 議事日程について、4. 一般質問の取り扱いについて、5. 議長の諮問事項に関する調査について、6. その他議会運営上必要と認められる事項。

以上です。よろしく申し上げます。

○議長（服田順次君）

お諮りします。委員長の申し出のとおり、閉会中における継続調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。したがって、委員長の申し出のとおり、閉会中における継続調査とすることに決定しました。

◎閉会の宣告

○議長（服田順次君）

本定例会の会議に付された事件は全て終了しました。会議規則第7条の規定により、本日で閉会したいと思います。御異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。したがって、本定例会は本日で閉会することに決定しました。

これで本日の会議を閉じます。

平成28年第4回東白川村議会定例会を閉会します。

午後3時30分 閉会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

議 長

署 名 議 員

署 名 議 員